事後評価報告書（実行団体用）

１．基本情報

１-１）実行団体名：　認定 NPO 法人くるみ－来未

１-２）実行団体事業名：川崎市中原区の一軒家型シェアリングハウス「くるみのおうち」運営事業

１-３）資金分配団体名：特定非営利活動法人まちぽっと

１-４）資金分配団体事業名：市民社会強化活動支援事業（Pecs）

１-５）事業の種類：草の根活動支援事業

１-６）実施期間：2020 年 5 月から 2023 年 3 月

１-７）事業対象地域：川崎市中原区

2.事業概要

２-１事業計画と結果

２-１-１）優先的に解決すべき社会の諸課題

① 領域：1) 子ども及び若者の支援に係る活動

3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動

② 分野：①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援、④働くことが困難な人への支援、⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援、⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

③ 直接的対象グループ：川崎市の知的・発達障害当事者と家族

④ 間接的対象グループ：市民活動団体・個人、近隣住民、高齢・障害福祉施設利用者

２-１-２）事業の背景・課題

〇社会的課題

現代社会において知的・発達障害等のある人と家族の生活環境はとても厳しい。保育園での入園拒否、学齢期のいじめや体罰、部活に参加できない状況等、さらに成人期には離職や引きこもり、地域に家庭以外の居場所がない等があり、ライフステージを通して親子で孤立しがちになっている現状がある。入所施設における殺傷・虐待事件が社会問題となっているように、障害に対する社会の理解不足は深刻であり、多様性をみとめあう社会とは程遠い現状である。

〇課題に対する行政等による既存の取組み状況

行政は福祉サービスの拡充を進め、障害児者の通所先は増加傾向だが、以下の課題がある。

① 成人期の居場所が足りない

② 福祉サービスが必要な人に届いていない

③ 制度の狭間にいる当事者の居場所になり得ない

④ 障害福祉サービス以外に地域とつながりが持てる機会が少ない
⑤ 高齢者など隣接的立場で支援が必要な層との一体的な支援がなされていない
⑥ 上記のような居場所や活動の「担い手」を育てる仕組みがない。

《中長期アウトカム》

川崎市中原区において、自閉症のように多様な特性のある当事者と家族が孤立することなく、豊かに自分らしく生きることができる、包摂的かつ持続可能な地域・社会を創る。

《短期アウトカム》

1. 川崎市中原区の「くるみのおうち」を中心に、当事者・家族が参加しやすいイベントや活動が定期的に行われ、支援対象者にとって安心して参加できる居場所となる。
2. 川崎市において、当事者家族や一般市民に対し、知的・発達障害についての理解が進み、お互いをみとめあう寛容な地域・社会に近づいている。
3. 川崎市において、くるみのビジョンに共感し、類似の取り組みを行う市民活動団体や個人が増え、新たな活動が展開されている。

《活動》

①-1. 知的・発達障害のある当事者を支える家族の困り感を共有し合えるピアサポートの場として、Zoomなどオンラインでの「おうちお茶会」を企画・実行する。年５回。
①-2. ①-1で当事者と家族のニーズを捉え、アウトプット②の事業活動の企画に活かす。
②-1. 知的・発達障害のある当事者と家族が参加しやすいイベントを企画する実行委員会を立ち上げる
②-2. 当事者と家族が参加しやすいイベントを企画する上で、コロナ下でも実行可能な内容か、どのような準備を行うか等、実行委員会および役員メンバー間で合意形成を図る
②-3. 当事者と家族が参加しやすいソーシャルインクルーシヴなイベントや活動を企画・実施する。都度ふりかえり打ち合わせも実施。（回数は20年:5回、21年10回、22年:10回、内容はお弁当・パン作り、プログラミング体験などを想定しているが、コロナ影響により回数も内容も変わりえる）
②-4. 当事者家族には「人の目が気になって障害のある子と出歩きづらく、同じ環境のママ友達と気楽にお茶をすることもできない」という方もあり、そのようなニーズに応えるためのスペース貸し事業を実施する。
③-1. 知的・発達障害のある人の家族や支援者が、当事者の「思春期」への対応について学び合うセミナーを企画するための実行委員会を立ち上げ、定例会を運営する。（特別支援学校教員、支援者、家族等による準備委員会を立ち上げる。定例会は毎年９月以降に３回程度開催、オンラインでの実施も視野に）
③-2. 知的・発達障害のある人の家族や支援者が、当事者の「思春期」への対応について学ぶセミナーを実施する。（オンラインでの実施も視野に、年１回ないし２回程度の開催を目指す）
③-1/2のセミナー企画・参加メンバーとのふりかえり打ち合わせ兼懇親会を行い、お互いにつながりを深め合う場とする。（オンラインでの実施も視野に）

④-1. 知的・発達障害のある人について、講演会・研修会を行うにあたっての前打ち合わせを実施、進行スケジュールと実施内容について合意する

④-2. 知的・発達障害のある人について、講演会・研修会を実施する（テーマは「知的・発達障害について」「思春期への対応」「親の思い」などを想定）

④-3. 講演会・研修会におけるアンケート結果をもとにふりかえり打ち合わせを行い、次回の企画に活かす

⑤-1. くるみスタッフ同士でつながりあえる場として、Zoomなどオンラインでの「おうちお茶会」を企画・実行する。（例、近況報告など、ゆるやかな内容でスタート）年３回。

⑤-2. くるみスタッフ同士で学び合える場として、Zoomなどオンラインでの「おうち研修会・勉強会」を企画・実行する。年２回。（⑤-1でニーズを拾い、⑤-2で実現を目指す）

⑥-1. 支援者同士、市民活動団体同士の横のつながりを深められるイベントを、Zoomなどオンラインで企画・実施する。（例、市民活動実践家によるオンライン懇親会など）　年３回。

⑥-2. NPO、市民活動等の担い手に向けて、くるみ立ち上げと運営（「くるみのおうち」立ち上げ含む）に関わる事例紹介の場を持つ（形式は要検討/オンラインセミナーも視野に）

⑥-3. NPOや市民活動立ち上げ・運営、居場所づくり等のコンサルティングを行う「担い手支援事業」を立ち上げ、計５回の支援や協働を行う　（支援・協働の実施回数: 21年：２回, 22年：３回）

２-２本助成事業終了後の事業活動（出口戦略）

① 支援対象者のニーズに合致した事業活動を展開することで事業収益を確保する

② 認定取得と寄付を募る活動に注力することで寄付金収益を拡大する

③ 新たな事業ニーズが出てきた場合には、内容に応じて新規に助成金の獲得を目指す

④ 地域でのつながりを生かした相談支援、移動支援、地域活動支援センターなど福祉サービス（補助金事業）展開の可能性も視野に入れる

３．事後評価計画・実施概要

３-１事後評価計画

《評価項目・評価小項目》

〇アウトカムの達成度

① 事業開始時に設定したアウトプットは達成されたか？

② 事業開始時に設定した短期アウトカムに結び付けることができたか？

〇波及効果：

① 当初想定していなかったアウトカムが生まれたか？

② 事業展開上 好ましい変化や気づきが生まれたか？

〇事業の効率性：

① 投入した資源に対して、成果の規模が妥当であったか？

② 投入した資源に対して、成果の質が妥当であったか？

３-２事後評価実施概要

３-２-１）評価ポイントの設定・実施（どのような変化をこの事業の重要なポイントとして設定し評価を実施したのか）

３-２-２）実施した調査（どのような調査を実施して測定したのか）

３-２-３）調査結果の分析（調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか）

① 短期アウトカム１「川崎市中原区の「くるみのおうち」を中心に、当事者・家族が参加しやすいイベントや活動が定期的に行われ、支援対象者にとって安心して参加できる居場所となる」の評価

- 調査方法：アンケート調査（活動参加時の安心感と団体に対する信頼度の調査）
- 調査実施期間：2022年12月～2023年１月
  調査対象者：事業対象200人中、事業に参加した75人を選定、回収36人（48%）
- 分析方法：安心感・信頼感の程度とその要因を分析

② 短期アウトカム２「川崎市において、当事者家族や一般市民に対し、知的・発達障害についての理解が進み、お互いをみとめあう寛容な地域・社会に近づいている」の評価

- 調査方法：アンケート調査（川崎市社会福祉協議会主催の研修受講者アンケート）
- 調査実施期間：2020年9～10月、2021年11月、2022年10月
- 調査対象者：発達障害研修への参加者
- 分析方法：研修参加の満足度と定性コメントを整理・分析

③ 短期アウトカム３「川崎市において、くるみのビジョンに共感し、類似の取り組みを行う市民活動団体や個人が増え、新たな活動が展開されている。」

- 調査方法：個別ヒアリング
- 調査実施期間：2022年10月～2023年１月
- 調査対象者：新たな事業活動の担い手
- 分析方法：個別ヒアリングやアンケート結果をもとに分析

３-３実施体制（内部/外部、評価担当役割、氏名、団体・役職）

《計画時》

知的・発達障害当事者、家族、事務局スタッフ、特別支援学校教員、元主任児童委員、元民生児童委員部会長、NPOコンサルタント等の関係者による打ち合わせや関係者へのヒアリング

《事後評価実施時》

① 事業活動参加者への個別ヒアリングおよびアンケート調査（実施時期：12月～１月）

② ①の結果を踏まえた打ち合わせでの議論（くるみ役員および事務局での打ち合わせ／計画時に記載した専門職および属性メンバーが参加）

４．事業の実績

４-１インプットの計画と実績

４-１-１）資金

① 事業費

（計画時）

事業費（自己資金含む）7,633,000 円

＊内訳〔直接事業費〕　6,769,000 円/〔管理的経費〕864,000 円

（実績額）

事業費（自己資金含む）8,347,200 円

＊内訳〔直接事業費〕　7,262,103 円/〔管理的経費〕1,085,097 円

② 評価関連経費（計画時）299,700 円/（実績額）299,700 円（ご記入時点での額でご記入ください）

③ コロナ対策緊急支援追加額 420,000 円

④ 助成額（計画時合計額）6,299,700 円

⑤ 助成額（実績合計額）6,689,700 円（ご記入時点での額でご記入ください）

⑥ 自己資金の種類と金額（計画時額）

・ 種類:助成金　＝2020 年度:110,000 円/2021 年度 110,000 円/2022 年度 110,000 円

・ 種類:事業収入＝2020 年度:213,000 円/2021 年度 300,000 円/2022 年度 410,000 円

・ 種類:会費寄付＝2020 年度:130,000 円/2021 年度 100,000 円/2022 年度 150,000 円

⑦ 自己資金の種類と金額（実績額）

・ 種類:助成金　＝2020 年度:110,000 円/2021 年度 160,000 円/2022 年度 110,000 円

・ 種類:事業収入＝2020 年度:215,000 円/2021 年度 300,000 円/2022 年度 350,000 円

・ 種類:会費寄付＝2020 年度:176,200 円/2021 年度 384,000 円/2022 年度 152,000 円

⑧ 自己資金の調達で工夫した点など（自由記述）:

コロナ禍を主要因とする環境変化により、当初計画以上に人件費/消耗品費等の支出が増えたため、寄付を募る活動（上映会での寄付呼びかけ、ニューズレター郵送時の継続寄付の依頼、認定取得による寄付金控除の PR 等）、を強化して活動原資に充てた。

４-１-２）人材

① 計画時:内部:合計 10 人（プログラムリーダー３人、事務局２人、ボランティア５人）外部:合計 20 人（専門家３人、プログラムリーダー５人、野外活動アドバイザー２人、運営ボランティア８名、民生児童委員会長・保健師各１名

② 実　績：内部：合計 13 人（プログラムリーダー３人、事務局 ３人、ボランティア ７人）
外部：合計 17 人（プログラムリーダー５人、野外活動アドバイザー２人、運営ボランティア 10 名

4－1－3）資機材（事業で購入した高額の資機材の主要なものを記載してください）
① 計画時：ノートパソコン 1 台、エアコン 1 台
② 実　績：ノートパソコン ３台、エアコン 1 台

4－2活動とアウトプットの計画と実績
4－2－1）主な活動の計画と実績
《アウトプット（計画時：概要、指標、初期値/初期状態、目標値／目標状態、目標達成時期、実績値）》

(3)アウトプット	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期	実績値
①1-1 当事者家族同士のつながりの場をつくる（オンラインお茶会など）	つながりの場の実施回数	初期値:0	実施回数: 15回 (コロナ情勢や家族の状況を見て判断)	実施回数: 20年:5回, 21年:5回, 22年:5回	実施回数: 20年:2回, 21年:4回, 22年:4回 （おやじの会実施回数）
②1-2 当事者/家族向けイベントや活動を実施する	イベント・活動等の実施回数、参加者数	初期値:0	実施回数: 25回 参加人数: 180名(延べ人数)	実施回数: 20年:5回, 21年:10回, 22年:10回 参加人数: 20年:30人, 21年:60人, 22年:90人	実施回数: 20年:9回, 21年:17回, 22年:22回 参加人数: 20年:96人, 21年:128人, 22年:119人
③2-1 保護者や支援者向けにセミナー、研修会を行う	1. .セミナー・研修等の参加者数 2. アンケート結果	初期値:0	実施回数: 5回(20年:1回,21年:2回,22年:2回) 参加人数: 100名(延べ人数)	実施回数: 20年:1回, 21年:2回, 22年:2回 参加人数: 20年:20人, 21年:40人, 22年:40人	実施回数: 20年:4回, 21年:3回, 22年:1回 参加人数: 20年:75人, 21年:78人, 22年:50人
④2-2 一般市民向けに啓発活動(講演会、研修会)を行う	1. .講演・研修等の参加者数 2. アンケート結果	初期値:0	実施回数: 5回(20年:1回,21年:2回,22年:2回) 参加人数: 100名(延べ人数)	実施回数: 20年:1回, 21年:2回, 22年:2回 参加人数: 20年:20人, 21年:40人, 22年:40人	実施回数: 20年:1回, 21年:2回, 22年:1回 参加人数: 20年:20人, 21年:42人, 22年:42人
⑤3-1 くるみスタッフ同士のつながりや学び合いの場をつくる(オンラインお茶会や研修会など)	つながりや学び合いの場の実施回数	初期値:0	実施回数: 15回 (コロナ情勢や家族の状況を見て判断)	実施回数: 20年:5回, 21年:5回, 22年:5回	実施回数: 20年:3回, 21年:7回, 22年:5回 （スタッフ打合せ/研修参加等）
⑥3-2 くるみが「担い手支援事業」を立ち上げ、団体・個人が地域で新たな活動を展開することを支援する。	活動担い手への助言・コンサルティング回数	初期値:0	助言・コンサルティングの数: 5回	実施回数: 21年:2回, 22年:3回	実施回数: 20年:3回, 21年:3回, 22年:2回 （助言/コンサル対応および活動の担い手となった回数）

《主な活動/主な活動における実績》
A) アウトプット①1-1「おやじの会」
「コロナ禍で交流の機会が全くゼロになって困っている」という父子家庭のお父様からの切実な声から実施することとなった。そもそも父親は母親に比べて地域での交流の機会が少ない場合が多く、困り事があっても家庭内で抱えてしまいがちである。そのような孤立を和らげる相互交流ができる機会が必要であると考えたのがきっかけである。オンラインであっても「障害のある子を育てながら働いている父親同士」という同じ環境にある人同士で安心して話ができること、地域の情報交換や気軽に相談できることの意味は大きいことがわかった。そこで運営ルール（初参加の方をあたたかく迎えよう／おやじの会での会話は口外禁止、など）を設けてどなたでも安心して話ができる場づくりに努めるとともに、Facebook 等でも告知した結果、参加希望者がジワジワと増えている状況である。感染状況が落ち着いた時期には対面でのリアル交流会も行い、こちらも参加希望者が多かった。お子さん連れで長時間の外出は難しい方が多い中、「くるみのおうちには安心して来ら

れる」と父子でリラックスした時間を過ごして頂くことができた。合計 10 回のおやじの会を実施し、参加延べ人数は 76 人（父子家庭は 30 人）であった。

社会的には少数派だが、障害のある子を一人で育てる父親もいる。障害のある子の子育てで悩む父親もいる。そういうつもりはなくても、地域から孤立し、つながりを持つことが難しい父親もいる。いつも奮闘しているお父さんが、本会への参加をきっかけに父親同士の横のつながりを持てることは大きな意味を持つ。今後も長く続けられるよう大切に育てていきたい。

B) アウトプット②1-2「当事者・家族向けイベント」

みんなでカレーを食べる会、アウトドア体験活動、バスハイク企画など、様々な内容で月 1～2 回ほど実施した。いずれのイベントも参加家族には大変好評でリピーター参加率は 70%ほど。参加回数が多い人ほど満足度が高まる傾向にあった。参加回数を重ねる中で団体への信頼度が増し、「安心して参加できる」「かけがえのない、あたたかな居場所」として認知して頂いている。また、一部の参加者からは「ボランティアスタッフとして参加したい」という申し出を頂き、実際にスタッフとして活躍して頂く、ということもあった。

これらの企画や運営では、ニーズに合った内容にすることを大切にしながら、それ以上に「事前準備を入念に行うこと」を心掛けた。例えば「カレーを食べる会」では、お客様同士の交流の機会や同伴のお子さんの年齢と特性等も考慮して配席を決めるなど「どうすれば楽しい時間を過ごして頂けるか」を強く意識して運営するよう努めた。
その背景として、次のような失敗体験がある。参加希望者が多かったイベントでスタッフの人数を手厚く準備したつもりが、全体の人数が増えすぎて却って落ち着いて参加できない、という人が出てしまった。さらにこの際には近隣住民の方から「あまり多人数での活動はやめて欲しい」との声があった。

この一件があって以降、イベント毎に適正人数を再検討し、事前の段取りをこれまで以上に入念に行うようになった。くるみが支援対象としている知的・発達障害のある人の中には、感覚過敏があったり、人との接触が苦手だったり、騒々しい環境が苦手だったりする人が多い。参加者一人ひとりの特性やその時の気持ちが「あたりまえ」に尊重され、保障されることを心掛けるとともに、近隣住民への配慮もきめ細かく行うようにした。そのような努力の結果、初めてイベントに来られる親子でも「安心して楽しい時間を過ごせた」という喜びの声が増えた。

社会の中に居場所がない、と感じてきた親子にとって「くるみのイベントに参加できた」という経験は、喜びや自信など、非常にポジティブで大きなインパクトをもたらすことが、事後アンケートの声からも裏付けられている。

C) アウトプット⑥3-2「担い手支援事業」（インターンスタッフ）

事業実施期間に受け入れた大学生インターンスタッフの活躍には目覚ましいものがあった。多くの活動に参加し、ともに時間を過ごした。多くの当事者・家族・支援者とのふれあいから感じ、学び、私たちにも多くの気付きと学びを与えてくれた。イベントには企画段階から参画し、得意分野を活かして運営面でも大いに貢献してくれた。最終的には上映会やイベントを実施するプログラムリーダーの役割を担ってくれるまでに成長し、大きな

社会的インパクトをもたらしてくれた。

くるみの事業活動は知的・発達障害のある子の親が中心で行っており、その多くが育児や介護等の負担が大きい中、何とか時間を割いて活動に参加している（家族を支える制度や仕組みも圧倒的に不足している）。そのため活動の幅を広げるためには、当事者家族を中心としつつも、当事者家族でない人にも活動や運営に参加してもらうことが、事業全体の推進力を底上げするために重要である。当事者家族ではない、障害児者福祉に関心のある、若い大学生の瑞々しい感性は、一緒に活動する当事者・家族に大きな刺激をもたらし、「インターンスタッフがこれだけ真剣にがんばっている。この大きな社会課題に取り組もうとしてくれている。だから私もがんばらなきゃ！」といった希望をもたらす。その姿に刺激を受けたインターンスタッフもより真剣に活動に取り組む。インターンスタッフの活動への参画はそのような相乗効果をもたらしてくれていた。そのような意味において、インターンスタッフ２名が果たしてくれた役割はとても大きかった。

D) アウトプット⑥3-2「担い手支援事業」（当事者青年）

知的・発達障害のある人を取り巻く環境がもともと厳しい中、コロナ禍以降はさらに厳しさが増していった。その影響が特に大きく出ていたのがくるみに関わる当事者青年たちであった。彼らの多くはもともと DV 等の理由で家庭に居場所がない、理解ある職場に巡り合えず仕事が長続きしない、精神疾患があり外出自体ができない等、社会的に孤立しやすい状態に置かれていた。コロナ禍以降、その状況に拍車がかかり、家から出なければいけないが行き場所がない、失職してしまって家賃が払えない、トラブルや犯罪に巻き込まれている等、より深刻な状況に陥っていった。

そのような青年たちを目の当たりにして、何も動かないわけにはいかない。当初の事業計画外ではあるが、そのような状態にある青年をくるみのおうちで一定期間受け入れた。短い場合は１週間ほど、長い場合は４カ月ほど、計５名の青年と暮らしを共にした。同じ釜の飯を食べ、寝食を共にする中で、彼らから出てきた言葉は「相談できる人がいない」「行ける場所もない」「制度のことはよくわからない」「親から『お前の努力不足』と言われ、がんばりすぎて疲れた」等であった。

日本の福祉制度は「申請主義」と言われるように、制度を知り、自分の意思で申請しないと福祉サービス等の公的支援に繋がることができない。そのハードルはかなり高く、家庭に頼ることができない若者の多くはそこに辿り着けない。また、仮に相談に赴くことができたとしても、白い壁に囲まれた狭い「相談室」で「専門家」と言われる初対面の人が正面に座って「今日はどうしましたか？」と聞かれる状況で、自分の悩み事を素直に話そうと思えるだろうか？「相談したいと思える人はいないし、気軽に集えるような場所なんてどこにもない」というのが、彼らの偽らざる本音ではないだろうか？

そのような問題意識から、くるみのおうちで受け入れた青年たちの自立を応援すべく、必要に応じて支援機関への繋ぎなどを行うとともに、厳しい状況にある青年たちが気軽に集える場づくりにも努めた。

彼らの多くは、くるみ主催イベントで進んでスタッフの役割を担ってくれ、先述のインターンスタッフからも刺激をもらい活動を共にした。おやじの会にも喜んで参加するなど、活動への参加が増え、信頼できる大人との関わりが増えるなどの好影響をもたらした。こ

のように、彼らは一方的に支援を受ける立場にいるわけではなく、くるみの事業の一翼を立派に担ってくれている。彼らは、我慢するのが難しかったり、飽きっぽかったり、失礼だったりもするけれど、実は情に厚く、友達思いのいいヤツばかりだ。これからも彼らの自立（大変なことがあっても、あくまで自分らしく、何とか生き抜くこと）を応援しつつ、共に生きることを楽しんで行きたい。

４－３外部との連携・協力などの実績

・　かわさきこども食堂ネットワークからの食料品等寄贈を受けて地域食堂/青年支援などの活動を行っている他、こども食堂運営者の協力により「みんなでカレーを食べる会」を計７回実施した。
・　黒川青少年野外活動センター、プチ冒険倶楽部の協力・指導により、アウトドアイベントを４年（計 10 回）実施し、当事者・家族の居場所とすることができた。
・　川崎市社会福祉協議会より講師派遣依頼を受け、2020～2022 年度の３年(計５回)、発達障害に関する研修講師を務め、市域単位で理解と共感の輪を広げることができた。
・　法人活動拠点である「くるみのおうち」で、家庭に居場所がなく自立生活もできず苦しむ当事者青年（計５名）を受け入れ、生活を共にしながら自立支援を行った。連携・協働先は、区役所、相談支援事業所、サポステ、生活困窮者自立支援法に基づく居場所事業所、NPO 法人など多数。

４－４成果の分析（アウトカムの達成度と分析）

４－４－１）短期アウトカムの計画（計画時：概要、指標、初期値/初期状態、目標値／目標状態、目標達成時期）》

(2)短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
1. 川崎市中原区の「くるみのおうち」を中心に、当事者・家族が参加しやすいイベントや活動が定期的に行われ、支援対象者にとって安心して参加できる居場所となる。	1.イベント・活動等の実施回数、参加者数 2.アンケート・ヒアリング結果	初期値：0	実施回数: 25回 参加人数: 180名（延べ人数） （短期アウトカム目標が達成されたかどうかは、アンケートおよびヒアリング結果から判断）	実施回数: 20年：5回, 21年：10回, 22年：10回 参加人数: 20年：30人, 21年：60人, 22年：90人
2. 川崎市において、当事者家族や一般市民に対し、知的・発達障害についての理解が進み、お互いをみとめあう寛容な地域・社会に近づいている。	発達障害や特性への理解が深まった状態	発達障害や特性について当事者家族や一般市民に理解が広がっておらず、学びたいと思っても気軽に学んだり、当事	発達障害や特性に関する理解と、当事者支援の理解が深まった状態（短期アウトカム目標が達成されたかどうかは、アンケートおよびヒアリング結果から判断）	2023年3月 （21年3月、22年3月には中間的な時期として設定）
3. 川崎市において、くるみのビジョンに共感し、類似の取り組みを行う市民活動団体や個人が増え、新たな活動が展開されている。	①くるみの担い手育成事業によって新たに生まれた関連団体・個人とのつながりの数 ②①のうち、くるみが支援を行った担い手の数（助言や協働など）	初期値：0	くるみの支援により、類似の取り組みを行う団体や個人による新たな事業が5つ展開されている状態（短期アウトカム目標が達成されたかどうかは、①②および関係者へのヒアリング結果から	①新たなつながりの数: 10団体/個人 ②実施回数: 5回 （2023年3月時点）

４－４－２）短期アウトカムの達成度（実績：概要、実績値、要因、課題など）

○　短期アウトカム１「支援対象者にとって安心して参加できる居場所づくり」

・　イベント毎に取得したアンケートでは、回答者の全員が「とても満足」「満足」であった。
・　イベントや活動の実施回数、参加人数など定性的な指標は、すべて計画以上となった。
　－実施回数：　25 回（計画値）　→　48 回（実績値）
　－参加人数：　180 人（計画値）　→　343 人（実績値）
　※ コロナ禍に伴う環境変化のため人数規模をやや縮小して実施回数を増やした

✧　別添「事後評価アンケート結果」から見て取れるように、「信頼できる団体スタッフ」

が運営している「安心できる居場所」という評価を受けている。

・ 「外出ができない」「(野外活動など) 多様な体験の機会がない」状態にある家族がくるみのイベントに初めて参加された感想として、「くるみのイベントなら来られる」「自閉傾向のことを理解していて安心できる」「温かい言葉がけがうれしかった」「また行きたいと本人が言っている」等の声を多く頂くことができた。

・ 上記の結果から、短期アウトカム 1 「安心して参加できる居場所づくり」は「達成」と判断する。

○ 短期アウトカム 2「知的・発達障害の理解とお互いをみとめあう地域・社会づくりの促進」

・ 活動内容としては、川崎市社会福祉協議会主催の研修講師の派遣、NPO 法人や中間支援団体、ロータリークラブ等への講演派遣などであった。

・ イベントや活動の実施回数、参加人数など定量的な指標は、すべて計画以上となった。

-実施回数： 10 回（計画値） → 12 回（実績値）

-参加人数： 100 人（計画値） → 307 人（実績値）

・ 川崎市社会福祉協議会での研修は 3 年で計 5 回をこなし、市民からのニーズに応えるべく内容を毎年練り直して実施。計 146 人（延べ人数）が参加するとともに、団体内に研修実施ノウハウの蓄積が進んだ。

✧ 別添「社協研修アンケート結果」では以下のような声が多く、親と支援者のエンパワメント、障害理解の促進、普段の支援における心構えなど、多くの気付きや学びに繋がっている。

-合理的配慮を皆様に広めたいと思います。

-かけてほしい言葉、NG な言葉など理解が深まりました。現場でも気をつけていきます。

-親の立場での苦労や困難思いへの共感ができた。

-色んな障害を持つお子さんの話、親の苦労したこと、よかったことのお話が聞けて、同じ障害児の親として共感したり感心したりできました。

・ 上記の結果から、短期アウトカム 2「知的・発達障害の理解とお互いをみとめあう地域・社会づくりの促進」は「達成」と判断する。

○ 短期アウトカム 3「くるみのビジョンに共感し、新たな担い手による活動が展開されている」

・ 活動内容としては、①スタッフ間の連携を取るためのミーティングや研修受講 ②インターンスタッフの活動支援、当事者青年および市民活動団体・個人からの相談対応であった。

・ 活動実施回数については①②ともに計画以上となった。

-①の実施回数： 15 回（計画値） → 15 回（実績値）

-②の実施回数： 5 回（計画値） → 8 回（実績値）

・ ①では「くるみーてぃんぐ」と称したスタッフミーティングを実施した。事務局を中心に、正会員、インターンスタッフ、青年当事者スタッフなどが参加し、イベントや活動

を推進する原動力となった。

・ ②のインターンスタッフ活動支援については、期間中 2 名の大学生を受け入れた。くるみのビジョンに共感し、ともに活動し、学び合う関係性の中で、最終的にはイベントリーダーの役割を担ってもらうに至り、多大な社会的インパクトをもたらしてくれた。
・ ②の当事者青年の相談対応については、家庭環境が厳しい青年を一時的に受け入れる中で、本人が望む暮らしを実現できるよう相談対応や関係諸機関との連絡・調整・つなぎ等を行うとともに、気軽に集える場づくりに尽力した。くるみ主催イベントでもスタッフとして活躍し、活動の推進力底上げにつながった。
・ ②の市民活動団体や個人の方からコンサル依頼が 3 件あった。相談内容は「ビジョン・ミッションの確立方法」「プロジェクトマネジメント」「団体の運営方法」「広報面の課題」等であった。くるみの経験を活かした助言や伴走支援により団体や個人様が課題を解決する手助けに努めた。コンサル実施以降も関係は続いており、適切な対応ができたと考えている。
・ 上記の結果から、短期アウトカム 3「くるみのビジョンに共感し、新たな担い手による活動が展開されている」は「達成」と判断する。

4-4-3）アウトカム達成度についての評価（複数の短期アウトカムの達成度を総合的に見て（中長期アウトカム・今後の活動に向けた展望など含む））

・ コロナ禍に伴う環境変化に応じて、人数規模を縮小しつつニーズの高い事業活動の回数を増やしたことで、実施回数/参加人数ともに目標以上の結果となった。スタッフの負担は大きく膨らんだが、短期アウトカム 1/2/3 いずれも「達成」、それも「想定した水準以上のレベルで達成」できたと考える。
・ 中長期アウトカムの達成に向けた課題は、以下の 3 点である。

1）くるみのビジョンに共感し、活動を共に創り上げる仲間（当事者・家族、支援者）を増やすこと
2）地域に根付いた活動の展開（自粛せざるを得なかった地域の地縁組織や福祉事業所との連携など）
3）上記 1）2）を可能とする安定財源の確保

4-4-4）波及効果（想定外、波及的・副次的効果など）

・ 大学生インターンスタッフの活躍が目覚ましく、想定以上の波及効果があった。インターン生自身の興味・関心に沿った活動に参加してもらうとともに、「こういうことがやりたい！」という本人の思いに沿って活動を企画してもらった。彼らは多くの打ち合わせにも参加し、たくさん話し合い、お互いに意見を出し合った。こちらはなるべく多くの当事者と家族、支援者と一緒に活動できるよう、機会を提供した。彼らはその中で多くのことを学び、感じ取り、最終的には事業活動のリーダー役を担うまでに成長した。この一連の流れの中で、事務局スタッフや活動への参加者、ボランティアなどの他メンバーも大いに刺激を受け、活動全体が活性化したのは、予め想定することができない副次的効果であった。
・ もう一つの想定外の事項として「当事者青年の相談支援」がある。これはコロナ禍もあ

り困り感が増え、自立に辿り着こうと本人なりに努力したがうまくいかず、くるみにSOS が来たところからスタートした。当初計画になく、大変な手間がかかる青年受け入れと相談支援対応を我々が受けた理由は、彼らが困りに困った状況に居たり、犯罪に巻き込まれたりしているのに、「大人として何も動かないわけにはいかない」という「使命感」からであった。しかしスタッフが青年と暮らしを共にし、関係諸機関との連絡・調整や日々の相談対応を毎日数時間、3ヵ月以上行い、スタッフの負担が大変に大きかったのも事実である。後述する施策等により青年当事者が気軽に集えるような居場所を地域に増やしていくことが求められる。

・ 他団体との連携により、自団体だけでは実施できなかった多様な活動を行うことができた。カレーを食べる会（子ども食堂運営者、子ども食堂ネットワーク）、野外活動（野外活動施設、大学）など、多くの活動で日常的に連携・協働を実践しており、このような連携ができたおかげで新規参加者が増え、当事者・家族、支援者（寄付者、ボランティア参加者等）の新たな輪が広げていくことに成功した。

4－4－5）効率性の向上

・ 助成金終了後も事業の継続性を担保できるよう、この 3 年で必要な備品類の購入、イベント講師役とのつながり作り、イベント推進リーダーの割り当て等の仕組み構築に尽力した。
・ 1～2年目はくるみのおうちの知名度を上げるため、子ども食堂のシェフに報酬を支払い「カレーを食べる会」を実施。短時間かつ人数が来られるイベントを優先的に行った。3年目は自前で費用を抑えて行うことができる「くるみのおうち開放日」を実施し、来年度以降につなげられるメリハリある運営を心掛けた。
・ 川崎市社会福祉協議会からの研修講師派遣依頼に対応したことにより、団体内に研修講師ノウハウが蓄積された。講演プランを Web 上で公開することで、次回以降の依頼に応えやすくする対応を整備した。
・ 知的･発達障害のある人と家族を対象とした事業活動の効率性を図る時に「目標の設定」は非常に大切であることを実感した。先述したように、参加人数が多いイベントにはそもそも参加できない／しづらい人が支援対象者には多い。誰に向けて、何を目的に、どのくらいの頻度でイベントや活動を行うか、という目標を細かく立てるのが解のようにも思えるが、あまり細かすぎると管理の手間や柔軟性を失うことにもなりかねない。やはり、単純に人数で評価するのではなく、イベントや活動毎に「参加者の満足度はどうであったか」「適正人数で行うことができたか」「実施プロセスには問題なかったか」など複合的な目標設定とふりかえりを丁寧に、多くの視点から評価されるべきではないか。

5．成功要因・課題

（成功要因）

○ 「活動を長年継続していること」

くるみの活動期間は約 9 年となっており、地域で福祉団体・市民活動団体への認知が進

んでいる。そのため青年支援における関係諸機関との連絡調整がスムーズだったり、支援者を経由したイベント参加希望の問合せが入ったりするなど、人の輪が広がりやすくなっている。地道な活動を長年続けてきた成果である。

○　「くるみのビジョンへの共感」

　イベントや活動の度にアナウンスや宣伝するなど、主催者の思いや団体のビジョンを伝える試みを続けてきた。その結果、当事者・家族、支援者など属性の垣根なく共感が広がり、くるみを支持してくれている人たちの輪が広がり、また新たな活動が展開される好循環が生まれている。

○　「個に合わせた対応」

　くるみでは個のニーズに合わせた対応を心掛けている。その時々に困った状況にある人に対して「できる人が、できる時に、できることを」という方針でイベントの運営や個別のサポート対応を行っている。これを積み上げることで、当事者・家族、支援者の別なく信頼関係が醸成され、団体の財産になっている。

《課題》

・　中長期アウトカムの達成に向けた課題は、以下の３点である。

1）くるみのビジョンに共感し、活動を共に創り上げる仲間（当事者・家族、支援者）を増やすこと

2）地域に根付いた活動の展開（自粛せざるを得なかった地域の地縁組織や福祉事業所との連携など）

3）上記 1）2）を可能とする安定財源の確保

６．「つながり」の強化

○　３年の事業活動を通して「つながりの強化（5)」にあたる協働を多数実践することができた。

・　かわさきこども食堂ネットワークからの食料品等寄贈を受け、地域食堂/青年支援などの活動を行っている

・　こども食堂運営者の協力により「みんなでカレーを食べる会」を計７回実施した。

・　黒川青少年野外活動センター、プチ冒険倶楽部の協力・指導により、アウトドアイベントを４年（計 10 回）実施し、当事者・家族の居場所とすることができた。

・　代表の太田が、川崎市教育委員会より「社会教育委員会会議専門部会委員（青少年教育施設専門部会)」の委嘱を受けた。

・　川崎市社会福祉協議会より講師派遣依頼を受け、2020～2022 年度の３年(計５回)、発達障害に関する研修講師を務め、市域単位で理解と共感の輪を広げることができた。

・　法人活動拠点である「くるみのおうち」で、家庭に居場所がなく自立生活もできず苦しむ当事者青年（計５名）を受け入れ、生活を共にしながら自立支援を行った。連携・協働先は、区役所、相談支援事業所、サポステ、生活困窮者自立支援法に基づく居場所事業所、NPO 法人など多数。

７．結論

７－１事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

・（１）、（２）それぞれ１箇所を選択し、○をご記入ください。

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
（１）事業実施プロセス				○	
（２）事業成果の達成度					○

７－２事業実施の妥当性

事業実施妥当性は、プロセスと成果の両面において、妥当であったと考えている。

＜プロセス面（想定した水準にある）＞

・　運営打ち合わせに当事者・家族を含む多様な人材が参画してニーズに合った活動を企画した。

・　当日スタッフに、家族、青年、インターン、ボランティアなど多様な人材が参加し、参加者も含めて全員で
創り上げる場であることをアナウンスして実施した。

・　イベントや活動が終了した後には、アンケートにより参加者の声を聴くとともに、スタッフでの事後ふりかえりを実施、次回以降のイベント企画に活かすようにしている。

＜成果面（想定した水準以上にある）＞

・　コロナ禍という環境変化に応じて、人数規模を縮小し、ニーズの高い事業活動の回数を増やして実施したことで、実施回数/参加人数ともに目標以上の結果となった。

・　スタッフの負担は大きく膨らんだが、「4-4-2)」に記載の通り、短期アウトカム１/2/3いずれも「達成」、それも想定した水準以上のレベルで達成することができたと考える。

・　「社会的課題」との関係では、「③制度の狭間に居る当事者の居場所がない」について、当初予定していなかった「当事者青年のシェルター受け入れ」を厳しい状況の中敢行したのは、その社会的インパクトと照らし合わせても妥当な判断であったとふりかえっている。また、「⑥「担い手」を育てる仕組みがない」という課題に対しては、インターンスタッフ２名の活躍を後押しすることで大きな成長を遂げてくれたことを鑑みても、適切な判断だったと考える。一方で「⑤高齢者など隣接的立場で支援が必要な層との一体的な支援がなされていない」に対する対応として、近隣の高齢者福祉施設との協働を模索したが、コロナ禍で断念せざるを得なかった。

８．提言

厳しい状況にある青年当事者を支援する居場所が地域に圧倒的に不足しており、これを拡充していく必要がある。くるみで青年受け入れをした際には、4ヵ月間 暮らしを共にし、困りごとの相談に乗って一緒に考え、支援機関に同伴し、一人暮らしまでつなげる、という大仕事をほぼボランティアベースで行った。しかし、このような活動を地域に広げよう

とすると簡単にはいかない。「それは専門職の役割だ」「私たちにはそこまでできない」という話になってしまう。一方で相談支援事業所などの専門職は「ご本人が相談に来てくれないと動けない」となり、誰もそのような青年たちにアウトリーチしようとはしない。結果として対応は家族任せ、あるいは本人の自己責任とされ、当事者や家族が地域で孤立していく構図がある。

我々の活動に対して、多くの方から応援や励ましの声を頂きありがたかったものの、そもそも「なぜ地域にもっと気軽に集えて、相談できるような居場所がないのか？」という根本的な疑問に行き当たる。問題は放っておくと雪だるま式に膨らんでいき、後になるほど対処が困難になる。早い段階から予防的な取り組みができるよう、まずは地域に気軽に集い、困ったことを気軽に相談し合えるような場を増やしていくことが必要だ。家庭に頼ることができない当事者青年ばかりでなく、地域で独居している高齢者や母子家庭など、地域に暮らす人たちの困り事は多様化・複雑化・深刻化している。知的・発達障害のある人と家族をはじめ、困難な状況にある人の多くは自分から助けを求めることができない／しづらい状況にあることを念頭に、障害福祉サービスなどの補助金事業だけではカバーできないニーズに柔軟に応えられる事業体を一つでも多く増やすこと、そのような市民の自発的な活動を、行政や中間支援団体等がアウトリーチ的に支援することが重要である。

例えば、「相談室」という堅い場ではなく、気軽に集えて、信頼できる大人が居て、何でも気軽に話ができる場を、地域にもっと増やすことはできないだろうか。障害や特性のある当事者青年だけでなく、ひとり親家庭、子ども、シニアも集えるような場として。地域の元気シニア力を活用したり、会社員がボランティア休暇を取って地域で居場所づくりに参加したり（会社も制度面でそれを後押しする）、大学生もそのような居場所づくりに関わったりする（大学は単位認定などでそれを後押しする）など、地域にインクルーシヴな居場所を増やすためにできることはまだまだあると思われる。

本事業で生み出した社会的インパクトを地域に拡大しようとする時、活動場所／人材／資金／運営ノウハウなどあらゆる面で資源が不足し、課題が山積している。そのため以下のような取り組みも必要である。

＜活動場所＞

・　空き家活用の仕組みづくり
・　耐震改修工事等の専門家によるフォロー体制整備
・　市の遊休地を地域の居場所づくりに優先利用する仕組みづくり等
・　インクルーシヴな居場所づくりに取り組む人に対するインセンティブ付与

（複数年度の助成金（3～5年単位）、無償又は低額で活動場所として使える土地・建物を公募し、使いたい団体とのマッチングを推進する仕組み、先進的な活動に対する行政による表彰制度など）

＜人材面/資金面＞

・　利用者の実情に応じて柔軟に相談支援を行うことができる人材育成と予算措置
・　地縁団体や高齢分野の事業所等とつながり、共通・類似の課題をともに解決する仕組

み

＜運営面＞
・　実践者による先行事例や優良事例を学べる機会を増やす
・　中間支援団体等による居場所運営の伴走支援

「事業評価」に関する懸念が一つある。世間では事業評価の仕組みが増え、認知度が上がり、PDCAサイクルや社会的インパクト評価などの仕組みに則った事業運営が盛んである。しかし、このような仕組みが浸透すればするほど「当初予定にない事業はやらない」「達成できそうな目標しか立てない」という事態に陥りはしないか。そうなると、特に困難な状況にある人は「支援困難事例」などと呼ばれ、対応が後回しにされてしまうことになるのではないか。もちろん事業であるからには計画を立て、それに沿った遂行をすることが基本ではあるが、現代社会では環境の変化が大きく、社会課題が容易に変化したり、深刻化したりする。四角四面な評価だけではなく、環境と支援対象者のニーズ変化に応じたアウトリーチ的活動に対しては、むしろインセンティブが与えられる柔軟な評価指標を確立する必要がある。

「本事業における事務作業の負担」について。本事業では、事務作業があまりに煩雑かつ重複作業が多く実行団体にとって大きな負担となっていることを指摘し、改善をお願いしてきた（例えば本事後評価報告書のフォームにしても、P.1～6まではほぼ「これまで実行団体から提出済みの内容を実行団体側で丸写し」しており、それだけでも大きな手間となっている）。Salesforceのシステムの運用に課題が多く、ようやく使い慣れてきたところで突然システムの仕様変更が入る等、事務作業面で悩まされることが多かった。休眠預金を活用した助成金事業はまだ緒についたばかりで、資金分配団体やJANPIAにとっても初めての経験であり、ある程度の混乱はやむを得ない事情は理解する。その一方で、今後の効率的な事業実施のために「事務作業の効率化」は避けて通ることができない大きな課題であることを改めて指摘したい。休眠預金を活用するからには国民への報告義務があるのは当然であることは間違いない。然しながら、このような事務作業の手間がかかりつづけることによって実行団体の活動リソースを奪い、社会的インパクトを削ぐ結果になってしまっては本末転倒である。実行団体にとって入力の手間や重複作業が極力発生しない、そして資金分配団体やJANPIAにとって事業展開状況の把握や分析が容易なシステム面での改善が強く望まれる。

9．知見・教訓

くるみでは「誰もが自分らしく生きることができる『インクルーシヴ』な社会づくり」を実現するため、多様なバックグラウンドの人たちがビジョンに共感して活動に参加している。団体の羅針盤であるビジョンを折りに触れて発信しながら、地道な活動を実践してきたことが、本事業の成功に繋がったと考えている。

くるみの事業運営の特徴的な要素として、当事者家族が中心の運営でありつつも、当事

者青年、福祉職、教員、市民活動家、野外活動専門家、大学教授、大学生インターン、ボランティア等、多彩な人材とつながっており、参加メンバー全員で活動を創り上げている点が挙げられる。多様な人材が集える場と活躍の機会を意識的に創出してきたことが本事業全体の成功に繋がった。

イベント等の運営面では、内部では事前打ち合わせやふりかえりを重ねるなど PDCA に沿った運用をする一方で、対外的には「『ゆるく、たのしく』、気楽に参加してくださいね！」とメッセージを発信している。そして、「その人」の現在の困りごとに対して、「できる人が、できるときに、できることを。でも深刻な困りごとに対しては、総力を挙げて取り組む」という姿勢で対応してきた。運営方法は団体ごとに考え方が違う部分ではあるが、くるみの場合は上記のようなやり方がうまく行っていることが事後評価用アンケート結果からも裏付けられている。

知的・発達障害のある人と家族支援について考える時、「当事者・家族によるピアサポート活動は強力なエンパワメントを生み出す」と言われている。例えば「障害のある子を育てる親」という共通項があるメンバーで、似た経験をしている人同士、語り合い相談し合える場があることで救われる気持ちになる親が多く居る。現代社会では「特別な配慮を要する人」は増え続けており、障害福祉サービスの供給不足の中にあって、当事者・家族のつながりとピアサポート活動を推進することは社会的に大変重要であり、そのような自発的活動を後押しする仕組みがこれまで以上に求められる。

10. 資料（別添）

①事後評価報告時のロジックモデル

（くるみの現時点でのロジックモデル。事前評価／事後評価時点で変化はない）

②事後評価アンケート結果

（2022 年 12 月～2023 年 1 月にかけて実施したアンケート結果）

③社協研修アンケート結果

（事業対象期間中に計 5 回実施した川崎市社会福祉協議会での研修受講者アンケート結果）

NPO法人くるみー来未・事業ロジックモデル

事業	活動内容	直接的な成果	短期成果（1-2年後）	中期成果（3-5年後）	長期成果（7-8年後）	ビジョン（10年後）
【当事者,家族,支援者,地域】 **①居場所づくり事業** （地域のサードプレイス）	<サードプレイス> **「くるみのおうち」**を立ち上げ活動拠点に。週末中心にイベントを実施する	・〇〇さんが安心して参加できる場 ・新たな当事者,家族,支援者の居場所 ・くるみメンバーの活躍の場	・〇〇さんにとり、家庭と施設以外の居場所がある。 ・関わるみんなが自分らしくふるまえる	・年齢,性別,障害等によるバリアがない状態でイベントを行うことができている。	・見守りや関わりの中で必要なサポートを受けながら**〇〇さんが自分らしく生きる**ことができている。	自閉症スペクトラムのように多様な特性のある当事者と家族が豊かに自分らしく生きることができるインクルーシヴな社会を創る
	<スペース貸し> 地域のニーズに応じたスペース貸し事業を行う（平日昼間中心）	地域の人が、それぞれのニーズに応じて利便性が高くあたたかなレンタルスペース利用ができる。	・地域と多彩なつながりができている ・くるみと他団体が互いの活動に協力し合っている。	・多様な支援者や地域の人が〇〇さんとふれあい、活動の中で互いに理解を深め合っている。	地域の人が、障害や特性のある人のことを**「そうなんだ」とみとめ**、あたたかく見守りながら過ごしている。	
	<事務局機能の強化> 法人運営に必要なタスクや月1の「くるみーてぃんぐ」を行う	事務局機能が増強され、安定してイベント・事務局運営がなされている状態	〔事務局1人⇒3人〕 ・太田以外が担う比率（20%⇒50%） ・くるみ塾生徒が事務局運営を担う ・雇用に踏み切る	〔事務局3人⇒5人〕 ・事務タスクを太田以外が担う or バックアップ体制はできている。 ・認定NPOの認可が下りている。	認定NPO法人として安定的に運営されており、情報公開・ノウハウ提供・寄附集めなどの分野で地域でモデル的な存在となっている。	
【当事者,支援者】 **②当事者活動支援事業** （くるみ部、くるみ塾）	<くるみ部> 自発的な企画と活動をサポート <くるみ塾> フラットな学び合いの場づくり	自立に必要な学びが得られる（強みを知り磨く、自分と他者理解, ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ, 安心して失敗できる）	コアメンバーが自発的な企画や活動を仲間とともに継続的に行うことができている。		コアメンバーで生きづらさを感じていた人が、本人なりの自立を果たして**色々あるけど何とかやっていけている。**	
【当事者,家族,支援者】 **③おやこイベント** （アウトドア,おこづかいゲーム,ピタゴラ）	おやこを対象にしたイベントを行う	おやこで興味のあるイベントに参加したり、ムリなく気楽に遊びに来ることができる	・おやこ同士や支援者とのつながりがうまれている。 ・誰かの「得意」「やりたい！」を起点にしたイベントが継続的に行われている。	参加する親子が 「ここならわかってもらえる」安心感と 「ここに自分の場所がある」所属感と 「役に立てている」貢献感を持てている	生きづらさを感じていた親子が、「ここに来れば仲間がいる」「だから大丈夫」という気持ちで生きている。	
【家族,支援者】 **④セミナー事業** （おこづかい,ﾗｲﾌﾌﾟﾗﾝ、思春期）	保護者を対象にしたセミナーを行う	家族が知らないことを学んだり、他の親と知り合うことができる	・家族同士や支援者のつながりがうまれている ・新たな学びのニーズが出てきている	・家族が問題を抱え込むのではなく相談したり頼ったりできる人がいる ・新たな学びのニーズに応えている	障害のある子を育てる家族が、**「この子を育てることができて良かった」**と思い、安心して暮らすことができている	
【支援者,地域】 **⑤普及啓発事業** （上映会,講座,研修講師など）	・地域の人たちに上映会/講座を行う ・他団体の研修に講師を派遣する	・地域の人たちが上映会/講座に参加する ・他団体の研修に集まる人が講座を受ける	・地域の人が障害についての正しい知識や接し方について理解を深める	地域の人たちの障害者に対する差別や偏見が減る	地域の人たちが、障害や特性のある人を「そうなんだ」とみとめ、人と人のあたりまえの関係を築いている。	
【支援者,地域】 居場所づくり支援事業	居場所づくりをしたい！という人に法人立ち上げ、運営、拠点立ち上げノウハウを提供する				インクルーシヴな社会創りを行う仲間が増え、別のやり方で事業が運営されている。	

くるみ－来未
事後評価用アンケート結果

■本アンケートの目的

①Pecs事業における3年間の事業評価

②来年度以降の事業活動検討のため

■実施時期　2022年12月～2023年1月

■対象者　活動参加者（当事者/家族/支援者）

■配布・回収数　回収37部/配布75部（回収率49%）

＜アンケート結果の総括＞

・くるみのイベントや活動に参加した人の**多くが「安心感」と「信頼感」を持ち、また参加したい**と考えている。
（2回以上参加している人に限っては、100%の方が「安心感」と「信頼感」を持っている）

・上記の傾向は、属性による違いは見られず、**立場が違っても安心して活動に参加**して頂くことができた。

・老若男女問わず、くるみのイベントに参加することによって**好影響があった**、の声がたくさん届いている。

・短期アウトカム1「当事者・家族が参加しやすいイベントが定期的に行われ、支援対象者にとって安心して参加できる居場所となる」は、実施回数／参加者数／満足度の面で、想定以上の成果をあげることができた。

・一方で、以下①②のような指摘も複数名からあり、③と合わせて来年度以降の運営課題である。

①運営者／スタッフへの**業務の偏りと負担感**

②がんばりすぎて、**個人生活とのバランス**が取れていないのではないか

③継続的な**資金調達手段**が確立できていない

＜質問項目＞

くるみのおうち事業検討用アンケート (google.com)

１．あなたにとって、くるみとはどんな場所ですか？

２．あなたにとって、くるみはどのくらい安心できる居場所になっていますか？（７段階）

３．２のように感じる理由やきっかけがあれば教えてください。

４．くるみ（代表やスタッフ）は、信頼できる存在ですか？（７段階）

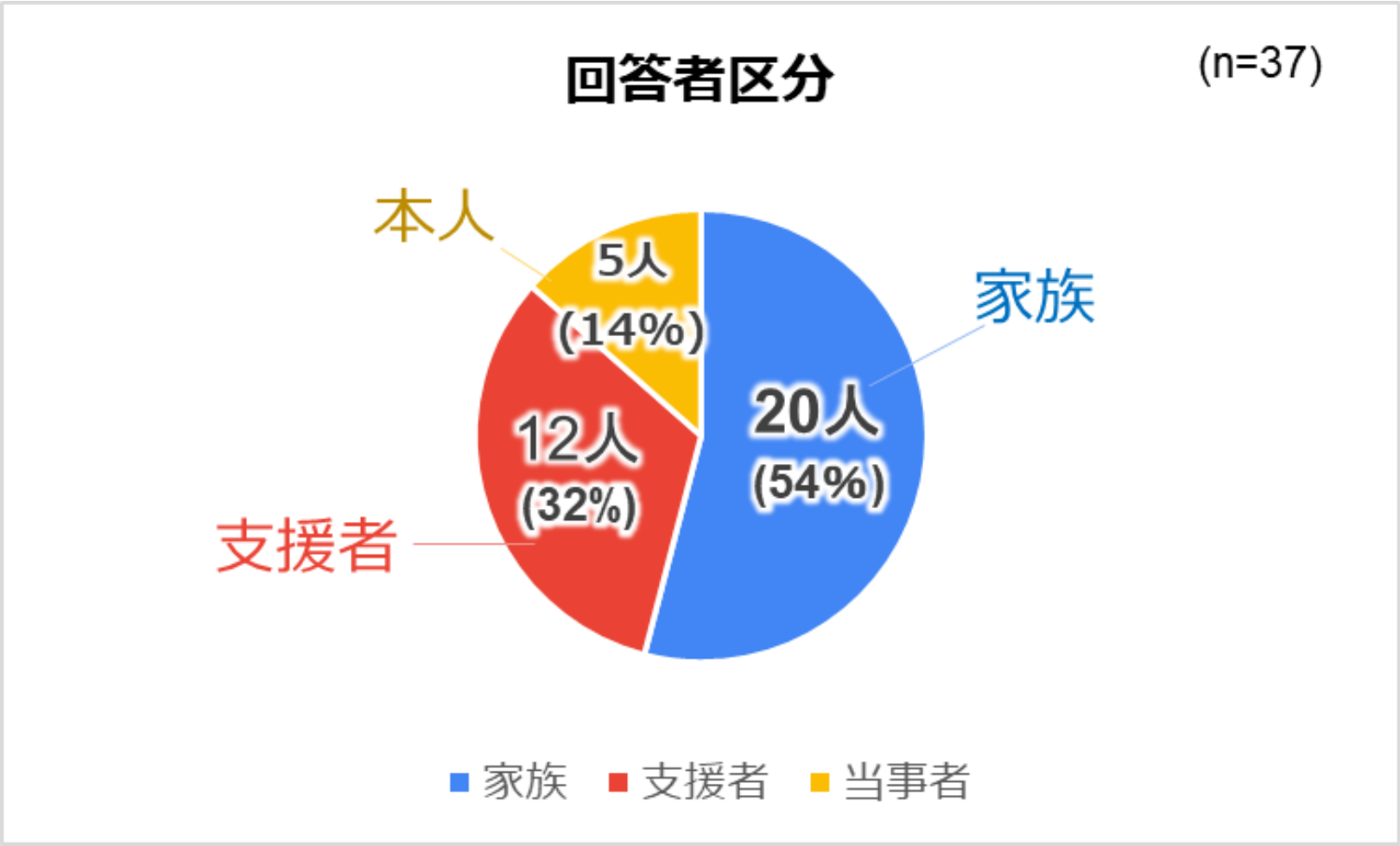
５．４のように感じる理由やきっかけがあれば教えてください。

６．くるみの事業活動に参加して、あなたや一緒に参加した家族が何か影響を受けたことはありますか？

７．くるみのイベントや活動に参加して、印象的だったことがあれば教えてください。

８．くるみの事業運営、イベント等について、もっとこうだったらいいのに、と思うことがあれば教えてください。

９．その他、コメントやメッセージなど（もしあれば）



回答者の属性は、家族が54%、支援者が32%、当事者が14%であった。

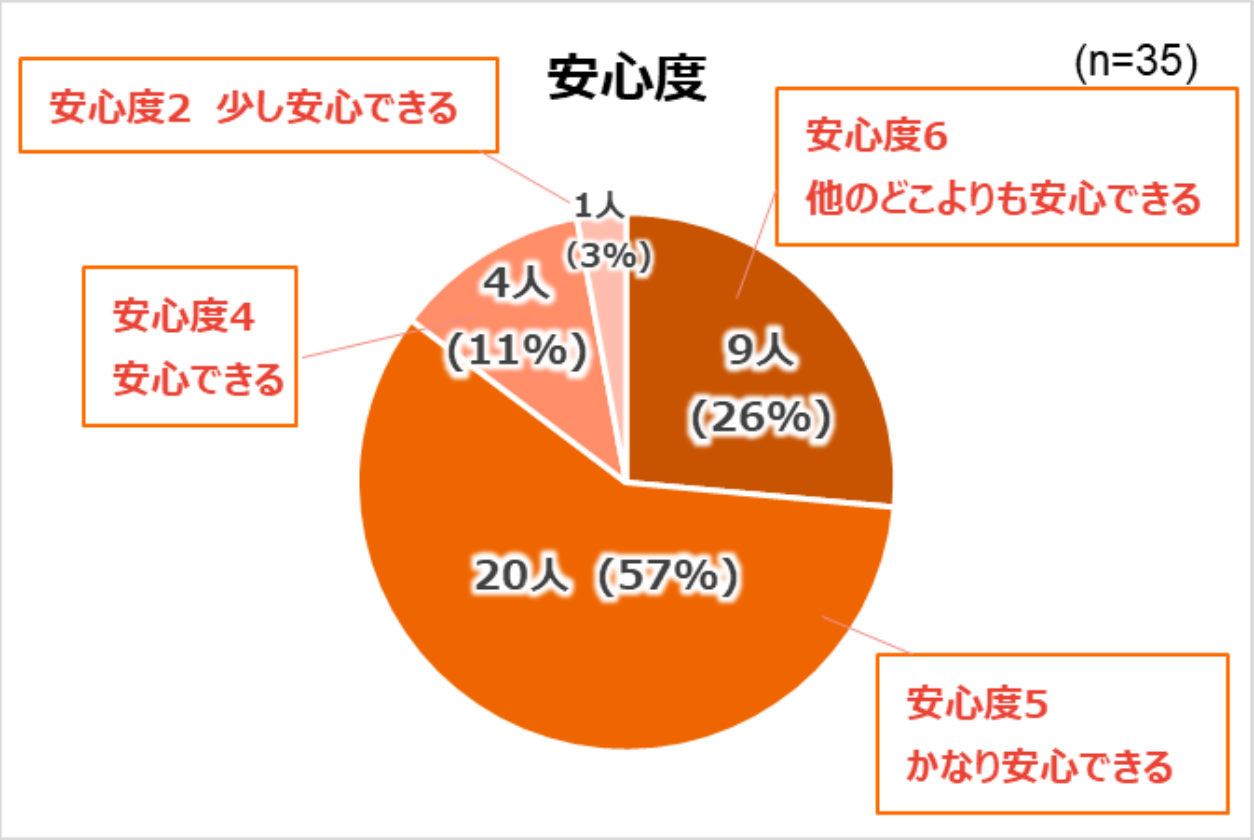
1. あなたにとって、くるみとはどんな場所ですか？

くるみは、居心地のいい場所。無理をせず、自分らしくいられる場所。居心地のよさは、代表やスタッフのお人柄で過ごしやすい雰囲気を作ってくれているおかげだと思う。
居心地が良い場所。無くなったら、とても悲しいです。
なくてはならない場所です。解散はショッキングですが、運営側の事情があるならそれを優先してもらいたいです。
くるみが存在してることで安心できる。
（なくなってしまうことを想像すると、） 悲しい気持ち、淋しい気持ち
生きがい。人生かけて理想を追求する舞台。自分が救われるための場所。
交流・意見交換の場
今、この社会は、解決が容易でない、偏見と暴力があふれていて、普通に生きていくことがとても難しくなっています。くるみは、その中で、灯台、オアシスの役割を担っているのではと思います。
安心して話せて支えになっている、今の生活に欠かせない存在。
温かく安心でき相談もできる場所で理事長はじめ皆さんお仲間のように感じる場所でもあります。もし解散になったら少ない居場所がなくなる不安や悲しみがあります。
こども、おとな、障がいのあるなしに関わらず、お互いが対等に尊重しあえる貴重な場であると思います。
マラソンに例えると給水所、山に例えると途中の山小屋です。
支えてくれる場
一緒に成長していく場、助け合っていく場
なくてはならない場所！
障がいのある人を持つ家族と行政が行う施策の隙間をしっかりつなぎとめる役割を担う場所。
困っている人、困っていない人でも、受け止めてくれるところ。誰でも居心地の良いところ。
家でも仕事場でもない第三の居場所で、損得勘定や経済合理性と無縁でいられる心理的安全性の高い居場所です。
自分が前向きになれる場所
居場所を必要としている人たちを受け入れてくれるところ。
第2の家
行政が向き合わず、支援を後回しにしている人々を救う場と思っています。高齢者福祉と比べ断然遅れていると思われる分野に太田理事長が果敢に斬り込んで行っている。
安心できる場所
生きづらさを抱えた人に寄り添う空間
自分の個性を認め、他人の個性も認め合える客観的に分析できる居心地の良いコミニュティ。
誰にとっても居心地のいい場所(そう言う場所にしようと努めている場所)
様々な個性のある人たちがその人らしくいられる場所だと思います。
かけがえのない、安心できる、あたたかな場所です。くるみの存在が、今、ここで生活し続ける理由になっています。

- **「かけがえのない、なくてはならない場所！」という強い思いを表明してくれた方が5名。**
- **「安心できる場所」、「自分らしく居られる場所」、「個性をみとめあえる場所」などの回答が多かった。**

２．あなたにとって、くるみはどのくらい安心できる居場所になっていますか？（７段階）

安心度０（まったく安心できない）	0
安心度１（あまり安心できない）	0
安心度２（少し安心できる）	1
安心度３（ふつう）	0
安心度４（安心できる）	4
安心度５（かなり安心できる）	20
安心度６（他のどこよりも安心できる）	9
わからない	1
計	35



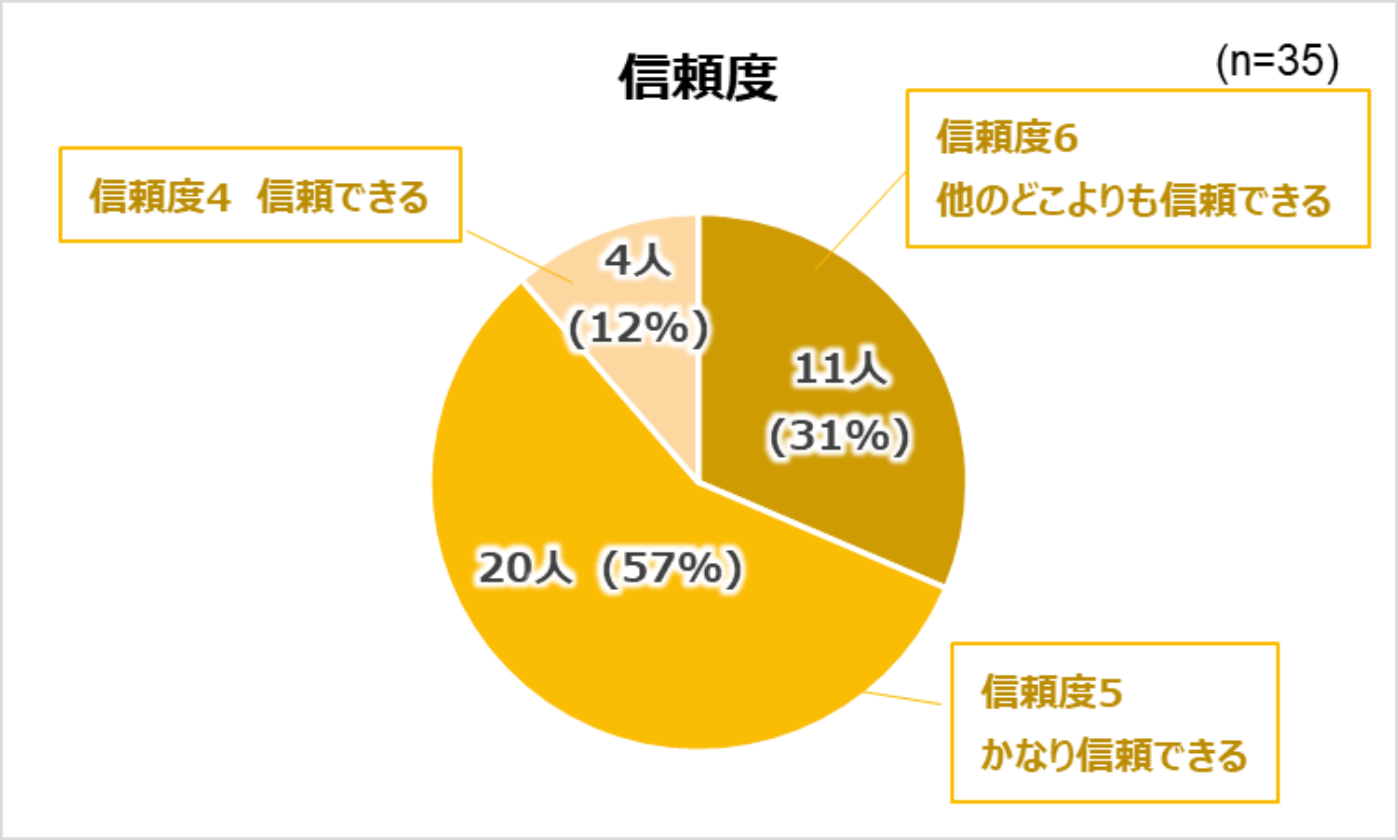
- 8割以上の方が「かなり安心」「他のどこよりも安心」と回答。
- 属性によるバラつきはなかった。立場や属性にかかわらず、心理的安全性の高い居場所となっている。

３． ２のように感じる理由やきっかけがあれば教えてください。

くるみのおうちは心からくつろげる場所です。 自身の団体で使わせていただいたときに参加者の皆さんもくつろいでいる様子でした。
他愛のない会話を皆で出来るから。
一人っ子でもあり、家庭の事情で家族というものを味わえない息子にとっては、自分の家のように、そして家族のように一緒に育ててもらっていてると感じるからです。
代表やスタッフの方と語り合うと自分の芯と重なる部分が多いと実感できるから。
当事者、家族共に、気兼ねなく安心して参加できる数少ない居場所であるから。
自分の感覚で運営しているので、自分にとっては他のどこよりも安心できる。
他がどのような場所があるかは不明なのですが、かなり信頼できる場所だと思います。
私と息子にとって、安心して、お話ができる場所になっています。
同じ思いを抱えている仲間に出会えて、いろいろ教わることができる。
理事長の太田さんのご経験や事務局の礒さんもご経験なども先輩の親御さんとして尊敬できる方々なので。息子を温かく受け入れてくださるのも感謝しているので。
「くるみのおうち」に関わるみんなが、事業の理念や意義を理解していると感じます。
息子についての情報がほぼない状況の中、そのままの息子を自然に受け入れていただいたことや、家族がそれぞれの参加の仕方で参加させていただけたこと。
助けて貰ったから
発達障害の子供を抱える家族の立場をよく理解しているから
関わっている人が良くて、ちょっかいをかけてくるような人がいないから。
質的な面で、他ではできていないきめ細かなサービスを数多く積極的に取り込んでそれを広めていこうとしているから。
スタッフの言葉、イベントでの方針。実際誰をも拒まず迎い入れてくれているから。
くるみ運営のみなさんやイベント参加者のみなさんと旧知の仲であること。また、初対面の方がいたとしてもくるみ運営の方々の丁寧な配慮により心理的ハードルが下がること。
日常的に利用しているわけではないけれど、何かあったら頼りにしたい、そんな場所です。
毎回イベントの事前案内、当日の進行がいつも丁寧に行われており、ここのスタッフの方にならわからないことがあっても質問がしやすい、頼りやすい、という雰囲気があり、そこに安心感を覚えました。
素の自分で居られる
利用する皆さんが安心できる場を提供できるように心掛けています。
スタッフがあたたかい、　個人を否定しない
子供の居場所になっています
自分と歳が近い人や、似たような悩みで悩んでる人同士で相談し合える場があるから。
何度も過ごす中で、嫌だと思うことがなかったため。
アウトドアイベントの参加が主になっていますが、みなさん（参加者、スタッフ、ボランティア）がそれぞれの立場でイベントを心から楽しんでいらっしゃる様子が素晴らしいと思います。
きっかけ…難しいです💧最初に活動に参加させていただいた時から、いつも感じております。

4. くるみ（代表やスタッフ）は、信頼できる存在ですか？ （７段階）

信頼度０（まったく信頼できない）	0
信頼度１（あまり信頼できない）	0
信頼度２（少し信頼できる）	0
信頼度３（ふつう）	0
信頼度４（信頼できる）	4
信頼度５（かなり信頼できる）	20
信頼度６（他のどこよりも信頼できる）	11
わからない	0
計	35



- 9割の方が、「かなり信頼できる」「他のどこよりも信頼できる」と回答。
- 「来たことはないけど、信頼できそう」という推測や、口コミによる信頼感の情勢がなされている。
  「くるみの人たちやその運営は信頼できる」というイメージ形成に成功している。

５．４のように感じる理由やきっかけがあれば教えてください。

いつも温かで楽しい事業を企画してくださり、素晴らしいと思います。太田さんと尚子さんの負担感が半端ないはずですが、なかなかお手伝いできず、申し訳なく思います。
くるみに対する熱意が伝わってくるから。
息子にとってとても近い存在で、長い間寄り添っていただいているからです。
代表やスタッフに話を聞いてもらうと自分の課題や立ち位置など冷静に振り替えることができる。
理事長はじめ関わる方々に誠実な人が多いと思うから。
多くの場面で、多くの方々が、運営において助けて下さっているため。
安心してお話できる場所だと思います。
安心して、相談がてきる場所だと思います。
とにかく苦労している日々に、頼ろう！思い付くところ。
息子の事で悩んでいる時にわざわざお時間を作ってくださり親身に相談に乗ってくださいましたし、その時に太田さん方なら親身になってくださると信頼しておりましたので。
生活上の問題で行き場がなく困っている青年に真摯に向き合い、支援に尽力されている姿を見て感銘を受けました。
お互いの発言や行動に対して想像力を働かせて、お互いを理解しようしながら過ごし中で、その環境をアレンジし作り出す代表、スタッフさん、協力者の方々に信頼感が持てた。
助けて貰うには事情を知らないと助けようがないから
発達障害の子供を抱える家族の立場をよく理解しているから
関わっている人が良くて、ちょっかいをかけてくるような人がいないから。
くるみのサービスを利用したいと考える家族のニーズを施策に取り込み、誠実に対応し実行しているから。
いつもです
応対は誠実ですし、何かと気にかけてくださるので信頼しています。何かあったら相談したいし相談しやすい存在ではありますが、多忙でいらっしゃるのでタイミングには気を遣います。
何かあった時や客観的な意見が欲しい時には是非相談したいと思う存在です
上記と重複しますが、毎回案内、進行がきちんと行われること。あと、定期的なニューズレターの発行で活動内容がわかることも挙げられます。
昔から知り合っているから
くるみのコンセプトのゆるく、楽しく　出来る人が出来るときに出来るだけ　などは共感する方が多いのではないかと思います。　構えなくともお隣さん感覚で参加できそうです。
こちらも、信頼できる存在であるようにしたい（運営スタッフ）
青年の受け入れ
障害の理解があり、地域の居場所作りを目指して多様な活動を行っているから
困った時にすぐ相談できる。悩みも真摯に向き合って聞いてくれるから。
うちのプログラムの参加者のお父さんとして関わらせていただくことが多いのですが、いつもお子さんの考え方を尊重しながら接していらっしゃること、いつもしっかりと私たちにフィードバックしてくださること、など
いつも、細やかな気配りや、あたたかいお心遣い、お声かけをいただき、助けていただいてばかりで恐縮しております！誠実さと優しさに、いつもいつも救われています。

６．くるみの事業活動に参加して、あなたや一緒に参加した家族が何か影響を受けたことはありますか？

様々なイベントに参加させてもらい、色んな人と関われる楽しさを感じ、イベントに積極的に参加するようになった。
息子の言葉を借りると、「くるみがあって良かった、くるみがなかったらどうなっていたか」 本人にとっても親の私にとっても、くるみの活動に参加する事で、温かい支えや繋がりを頂き、自尊心の低い子供にとっては、明日への生きる気力をもらえます。
娘が、ごく自然に一人でもくるみの活動に参加すること。
障害ある子供が、参加イベントを楽しんでいる姿を見て、他の当事者や家族のためにも、くるみの活動に協力したいと思うようになった
ここ数年、息子の「居場所づくり」にはなっていなかったが、またくるみの活動を楽しみにしている（バスハイクなど、楽しみにしていた）。ターゲットに合わせて事業を作ることは大切だが、必要性があるものは「どっしり構えてやり続ける」姿勢も大切。
様々なキャラクターの方がいらっしゃることを私が再確認しました。
息子は「上平間に行きます」とよくいっています。私は、いろいろと、懇談させていただくうちに、新たな知識を得られています。
こどもがピザ作りに参加して少し年上の人達と関われたり、その人達の姿に少し先の自分のイメージが作れたようだ。
黒川のイベントに参加させて頂き息子が自然の中で物凄く喜び楽しませて頂いたからです。また行きたいとすぐに言いました。息子はやっぱり自然の中が好きな事もわかりました。
野外活動に参加させてもらいました。普段は福祉の相談業務をしていますが、地域作りを行なっていく上で、色々な人達や地域資源と繋がることは大事とあらためて感じました。
オンラインの勉強会とプログラミング教室に参加。家族以外の人達とつながれたことで、仲間がいることを実感し、孤立感が和らいだ気がします。
悟り開いた
それぞれの家族のそれぞれの悩みを知ることで、子供との接し方の勉強になる
黒川の野外活動センターで"ピザ焼き大会"に参加した時「くるみのイベントならば安心して参加できまた他の団体が実施するイベントよりも満足度が高い」とのうわさを知って初めて参加したという家族が複数あって驚いた。
娘は幼児期からくるみのアウトドアに参加しているからか、年長者含む初対面の方々とのコミュニケーションに抵抗がなくなっています。また、くるみ運営の方々を通して、大人というものは信頼できる存在なんだと感じるようになっている気がします。
みんなの学校の上映会では、皆でインクルーシブについて考えるきっかけになりました。
身近で育児に悩んでいる友人にこういう場所があるよ、と紹介できました。 また、研修会に参加して、日常生活における困りごとについて知ることができ、自分が経験していないこと、知らないことへの決めつけをしないように心がける機会をもらえました。
くるみのおうちのペンキ塗りなどは自分たちで作ったおうち　と親近感がわくと思い、素晴らしいと思いました。
関わっている青年達の成長が著しいです。 育った環境は苦しい状況であったと思いますが、そこから抜け出して自分らしく生きられるように彼らなりに考えて実践しているのを感じて嬉しいです。
子どもが、活動に参加し、自身の障害を受け入れ前を向けました
くるみのイベントを企画開催するにあたり、主体的に動くようになったことを家族が驚いていた。私自身もそれを実感でき、今までの自分から変われた気がして嬉しかった。
イベントなどに参加する中で、発達障害に偏見を持つ知人などに対して、堂々と意見が言えるようになった
参加者の方に対する接し方（親しみを持ちつつ、とても丁寧であること）は参考にさせていただいております。なかなかうまくできませんが。
初めての人や場所が苦手な特性をもつ子供ですが、くるみの活動には、安心して参加する事ができています。その積み重ねのおかげで、日々の生活の中や、学校生活の中でも、新しいことに、チャレンジしていくことができてきました。わからない事＝苦手な事→やらない、やりたくない、という図式になりがちなのですが、わからないけど、くるみのイベントなら、くるみの皆さんがいるなら、行ってみたい、やってみたい、という、プラスの流れになっています。

７．くるみのイベントや活動に参加して、印象的だったことがあれば教えてください。

どれも印象的でしたが、個人的にはドラム缶ピザ作りです。
どのイベントも異年齢交流がしっかり出来ていて、昔、本家に親戚一同が集まったお正月のような、大人も子供もみんなが良い時間を過ごせるところが、 他では経験できない事だと思います。
年数を重ねるごとに青年スタッフの成長が感じられること。みんなに会うたびに嬉しくなります。
映画上映会（含む茶話会）、保護者勉強会
バスハイクは、とてもたのしかった。コロナで、遠出がてきなくなっていたので、助かりました。カレーライスまた、食べたいです。
楽しむところ、気を付けること、注意すべきことのメリハリがあってよかった。
息子が喜んだ事や親の講演会でも皆様も悩んで苦しんでいたりしている事をお聞きできて勉強になりました。
野外活動のみの参加でしたが、雄大な自然からみれば人間は皆一緒なんだなーと感じます。 あと、普段できない色々な事にみんなでチャレンジしたり共有する事も絆が深まると感じました。
プログラミング講座、オンラインで参加しました。できた時は思わずハイタッチして笑いが起きていました。お互いを認め合う時間がある持てたように思います。
バス旅行で思い通りに動けなかった（道が混雑し、休憩スポットに立ち寄ることができなくなったことを悔やむスタッフの気持ち）
すべてです。
インターンで関わってくださった大学生の子たちが、こんなにくるみにコミットして（のめり込んで）活動してくれるんだ、というのは毎年驚きです。
子供と一緒に参加したパン作りで、皆さんのお気遣いがとても嬉しかったです。
繰り返しになりますが、各種事業、イベントの事前案内と当日進行の丁寧さ。
走り回るお子さんと、それを見守るお母様を横目に笑っていた青年達を本気で叱っていた太田理事長の姿が忘れられません。 安心して参加してもらいたいという強い気持ちを感じられました。
参加者の皆さんに寄り添った運営をされているところ
野外活動で、大人も子供も素敵な笑顔で楽しんでいたこと
人生フルーツと言った映画上映会。
明るい
プログラムの最初と最後に必ず1人ずつ話をする時間があること、その中で、みんなが一人ひとりの話を、最後までしっかり聴こうとしている雰囲気が私はとても好きです。
どのイベントにおいても、特性に配慮してくださり、いつも助けていただいており、感謝しております。

８．くるみの事業運営、イベント等について、もっとこうだったらいいのに、と思うことがあれば教えてください。

直樹さんがいてくれたからくるみがあって、今のご縁があります。直樹さんにはまる活動がくるみにないとおっしゃっていましたが、直樹さんの喜ぶ事業実施を希望します。
早くコロナが終息して、コロナ対策を考えず大々的にイベントが出来たらいいなと思います。
代表のお二人の負担がも少し軽くなると良いかも。
コロナ禍過ぎたら、３年難しかった事や延期した事などできたらと思います。
後身の育成が永遠の課題になりそう
私自身が、困っているのですが、家事のスキルをあげる講座があればと思います。
プログラミング講座に関しては、我が家はこれ以上は理解が難しいと思っていますが、興味のある子にはきっかけとサポートがあることで、世界が広がると思います。 母と息子二人で行くにはちょっと難しいけれど、企画する代表、スタッフさんが無理のないお出かけ企画があったら参加したいです。
コロナ前ぐらいの大勢で楽しめるような活動がしたい✨
コロナ前のように人数が多く集まれるようになると良い。
満足度の高いサービスの提供には、運営者の熱意のほかに人手や資金がそれなりに必要。 内容を拡充する場合には、こうした事業資源を継続して確保することと、この分野の社会福祉活動への行政の積極的支援に加え、関連諸団体での連携および社会への一層の啓蒙と理解が極めて重要である。
事業運営についてもイベントについても、今のステージではできることを最大限（以上に？）やってくださっていると感じています。今後もくるみの成長に合わせてできることをみんなで考えていけたらと思っています。
くるみのおうちが一般道に面した場所だったり、広い庭を有する所であったなら、このコロナ禍でももっと活動を広げる事が出来ていたと思います。 近隣への配慮を気にしないといけない場所であったのが足かせにはなっておりました。
その場だけの　ニックネームでもいいので　お互いに声掛けしやすいと良いと思います
個人的には、くるみのイベントに初めて参加させていただいた、きっかけの、思い出の高尾山、またご一緒できたら嬉しいです！

９．その他、コメントやメッセージなど（もしあれば）

くるみに携わっていく中で色んな人と関わることができ、とても楽しいです。これからもイベントなどがあれば是非参加したいので、よろしくお願いします！
くるみのおうちが立ち上がってすぐコロナになり、たくさんの制限の中の3年を本当に色々頑張っていただいたなと感じています。
この安心できる場所を維持し、運営を続けていくことがどれ程大変なことか…。思いめぐらす度に頭が下がります。本当にありがとうございます。
コロナ禍過ぎたら、３年難しかった事や延期した事などできたらと思います。引き続きよろしくお願いします。
後身の育成が永遠の課題になりそうほどほどにがんばりましょう
何としても活動を続けてほしい。こどもが大きくなるにつれて、もっと密に関わらせていただきたいと考えています。
いつもありがとうございます。イベントの際も太田さんが一生懸命に息子の相手をしてくださり大変感謝致しました。
我が家は太田さんの発信してくださるパワーのおかげで、家族間で意見交換したり、それぞれの立場で何を大事にしていくかを考える機会を持つことができています。
俺と同じように苦しんでる人が居たら手を差し伸ばして察し行動して助けられるような存在でありたい
今年も本当にお疲れ様でした。運営のみなさまのおかげで、くるみでしか味わえない楽しくてあたたかい時間をたくさん過ごすことができました。来年も無理せず楽しくやっていきましょう
「明日解散します」と言われたら、事情を伺ってくるみさんの事業を継続させるために自分がやれることがあるならばそれをやるだろうなと思います。
親として見た場合、理事長、スタッフが一生懸命　真剣に取り組んでるのを見て、自分の生活を犠牲にしているのを見ると心配になります。
何か収益に繋がる事を青年達を巻き込んでやっていきたいです。
地域に根づいた、皆が集まってくる居場所作りを、これからも目指してください
3月までに遊びに行かせてください。
お互いの強みを活かして、これからも一緒に活動させていただきたいと思います。遅くなって申し訳ありませんでした。
いつも大変お世話になり、どうもありがとうございます！とにかく、いつもいつも感謝しかありません！！本当にありがとうございます！！ いつも参加者みんなの事を最優先に考えてくださる、くるみの皆さま。ご多忙極める毎日、くるみの皆さんのご体調が心配です。どうかご自身も大切に、ご自愛くださいませ！

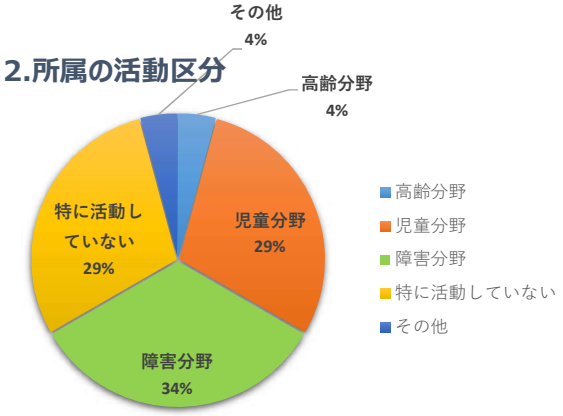
「はじめての発達障害9/16」研修参加者アンケート

開催日：令和2年9月16日（水）

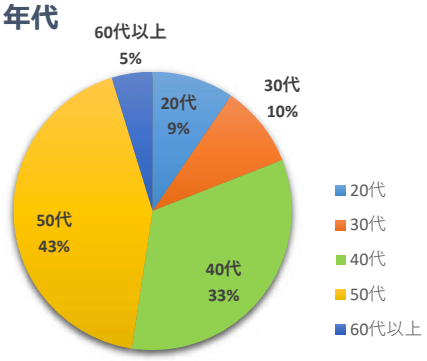
受講者数　22名（会場13名・オンライン9名）

アンケート回答者数　21名
（会場13名・オンライン8名）

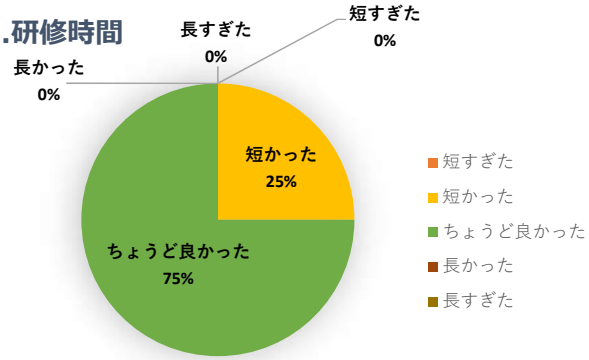
2.所属の活動区分



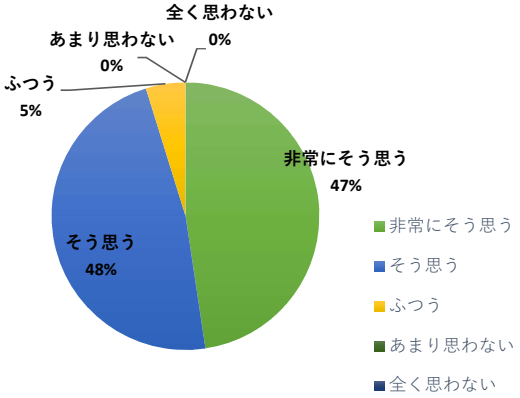
4.年代



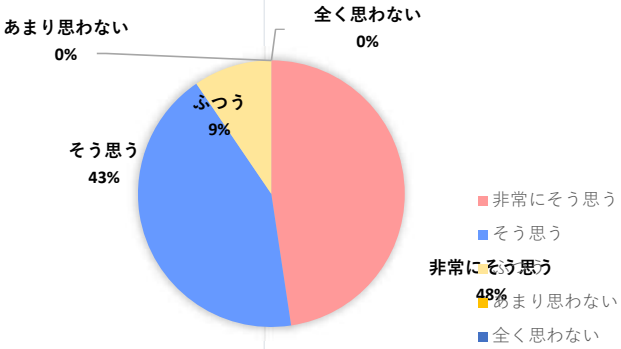
5-1.研修時間



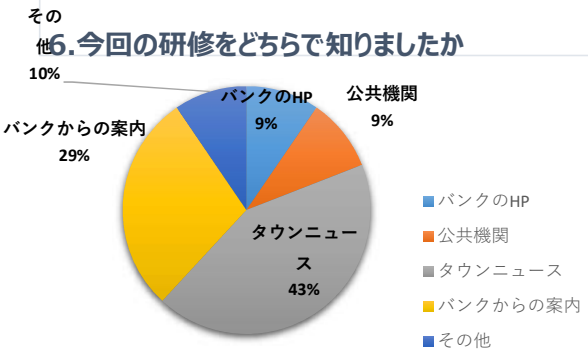
5-2.研修内容はわかりやすかったですか



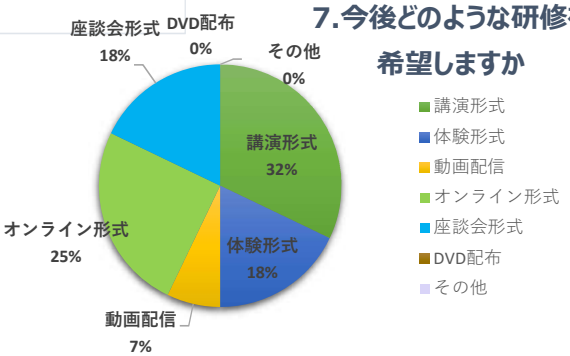
5-3.今後の活動、生活に役立ちますか



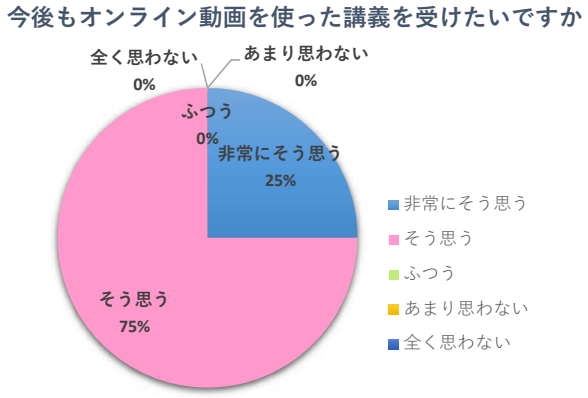
6.今回の研修をどちらで知りましたか

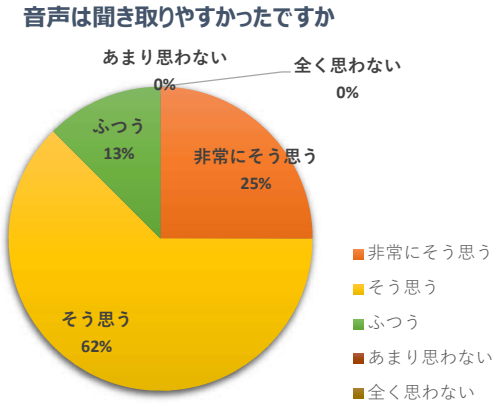


7.今後どのような研修を希望しますか



【オンライン参加者のみ回答】





8.今回の研修でどのようなことを学びましたか

<会場参加者>

・理論ではなく、具体的な対応や対処を体験からの言葉で学べました。
・グループワークで、いろいろな意見をきけたことで視野がひろがりました。また、発達障害のことをわかりやすく説明いただきありがたかったです。
・発達障害のお子様をお持ちの保護者の方の悩みを少しだけ分ったような気がします。
・先生の体験談を聞いて、参考になりました。
・実体験に基づく内容で、参考になりました。
・母親の立場のお話は多いですが、父親の立場というのは少なく大変貴重でした。ありがとうございました。
・環境（支援者も含めて）が障害を作り上げていることがあると分かった。自分がどう思うかでなく、本人がどう思っているのかを忘れずにしていきたい。
・傾聴の大切さ、サポートの意味について考えさせられました。
・いろいろな立場、年代の方に出会え、自分は幼稚園教諭としての立場、視点からしか今まで見れていなかったことが障がいのあるお子さんを持つ保護者の方の率直な意見等を聞けて、心情がわかり、今後の保護者支援に役立つ貴重な時間でした。
・今回参加されている方々は理解のある方や学びたいという方ばかりなので、話がつきませんでした。
経験の話とか本当にあった事などとても参考になりました。
・3才児の息子の子育ての参考になりました。
・子どもへの理解。自立できるように幸せになってほしい。

<オンライン参加者>

・障害児を預かる仕事をしているので、親御さんの思いや普段の生活、対処方法などを聞くことが出来て、大変学びになりました。
・まず，発達障害児を育てる保護者の体験談を聞くことができ，より身近に想像することができました．発達障害の特性についても勉強になりましたし、保護者支援の必要性も実感しました。
パニックへの対応も覚えておきたいと思いました。
・グループワークで様々な立場の方の考えを聞けて、参考になった。昨年の研修と合わせて、発達障害のことがまた少しわかったようにおもう。
・発達障害を持っている子が、どの様な気持ちで生活しているのか考えるきっかけになりました。完全に理解をしてあげるのは難しいかもしれませんが、その子の目線に立って気持ちを汲み取れるようにしていきたいです。
パニックへの対応も、色々な意見があり非常に参考になりました。
・個人別の対応
・発達障害についての基本的な理解ができた。
・講師の太田さんの行動力の素晴らしさに感心しながら　お話を伺っていました。
・講師の太田さんご自身のお子さんについて。発達障害の基本的なお話。困りごとの事例と対処法。

9.今後人材バンクで実施してほしい研修内容やテーマがあればご記入ください。

<会場参加者>

・発達障害関係の講座をふやしていただけるとありがたいです。
・精神障害者（ピア）のお話。地域移行等
・発達障害について、実践（事例を多く）
・統合失調症のこともやってほしいです。私自身が出産とこの病気と一生つきあっていかなければならないので。
・いろいろな角度でもっとしょうがいの事を学びたいです。

<オンライン参加者>

・障害者の自立や，地域移行というテーマに関心があります．
・発達障害児に対しての具体的な対応例
・反抗期の子どもへの接し方
・子どもと一緒に川崎市について、歴史や産業も学べたら楽しい
・精神、発達障害へのボランティア活動をしたいと考えているので、そのための入門講座的なものがあるとうれしいです。

10.その他、ご意見、ご感想、お気づきの点等ありましたらご記入ください。

<会場参加者>

・感染症対応、いろいろお気づかいありがとうございました。
・パニック時の対応など、現場で使える内容が書かれていたので資料としてあると役に立つように思いました。
・グループワークはよかったです。（色々な意見をきけて参考になりました）
・グループワークでは参考にしたい意見があり、勉強になりました。ついたてが、こんなに聞き辛いものだとは思いませんでした。
・オンラインが初めてだったので、とても新鮮でした。
・マスクとしきりで、グループワークの言葉が聞こえなくて残念でした。

<オンライン参加者>

・こうしたオンラインの講座の受講が初めてだったので、少し不安はありましたが、意外と内容に集中することが出来ましたし、グループワークで他の受講者の方と意見交換出来たことはとても良かったです。
・オンラインと会場の同時開催ということで，大変だったことかと思います．ありがとうございました．太田様のお話はもちろん，グループワークで様々な立場の方の意見を聞けたことが，非常に勉強になりました．
・オンラインてのグループワークは遠慮もあったりでやりにくい面もありと思う。誰かがリードしないと始まらない
・今回は初めてのオンライン講義で、準備等大変な面もあったかと思います。非常に有意義な時間を過ごせました！ありがとうございました！また色々な企画を考えて頂きたいです。よろしくお願い致します。
・オンラインで研修がもっとあれば気軽に参加できるのでよいと思います。コロナやインフルエンザが流行っても子どもが小さくても参加できます！
・オンラインのグループワークは急に画面が変わったり、戻ったりして少し戸惑ったので、事前に説明があると良かったかと思います。時間になったら自動で画面が切り替わります、くらいで良いので。
・テーマが「発達障がい」だったのですがその中でも自閉症寄りでしたへ。最近は隠れ「発達障がい」の方が多くいらっしゃると話題ですよね。その辺をテーマにお話し伺いたいです。ヨロシクお願い致します。
・アンケート回答が遅くない大変申し訳ありません。オンラインでこういった研修は初めてでとても緊張していましたが、講師の太田さんのお話がとても分かりやすく、特に父親目線での子育てのお話が新鮮に感じました。
一緒のグループになった方々も話しやすく、明るい雰囲気で良かったです。時間の部分で、太田さんのお話をもっと聞きたかったのと、質疑応答の時間をもう少し長くとって欲しいなと思いました。

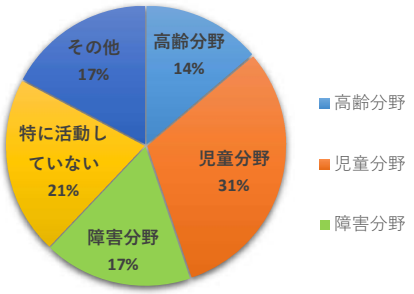
「はじめての発達障害10/16」研修参加者アンケート

開催日：令和2年10月16日（金）

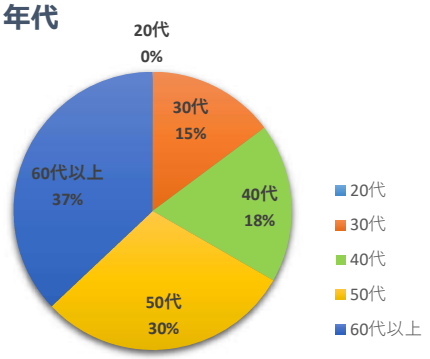
受講者数　29名（会場17名・オンライン12名）

アンケート回答者数　28名
（会場17名・オンライン11名）

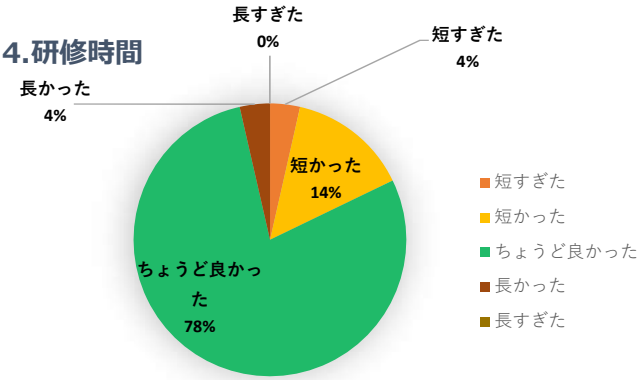
2.所属の活動区分



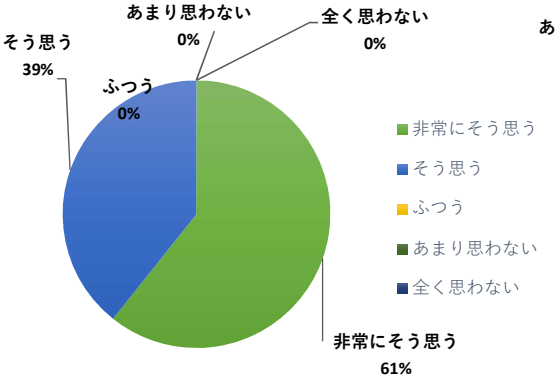
3.年代



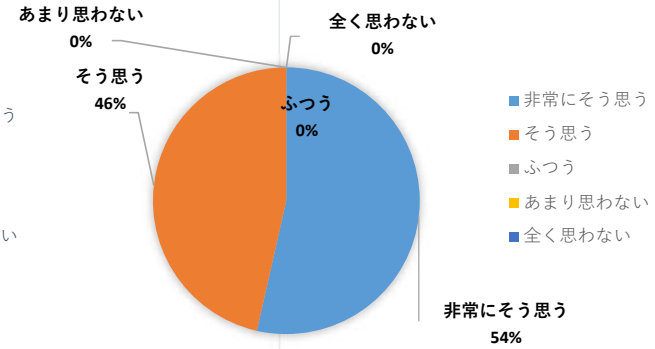
4.研修時間



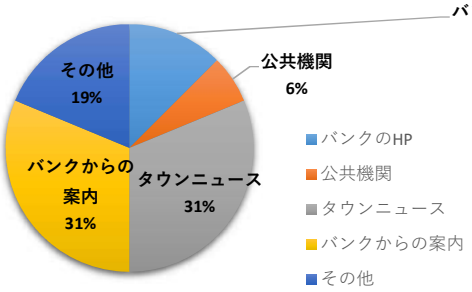
5-1.研修内容はわかりやすかったですか



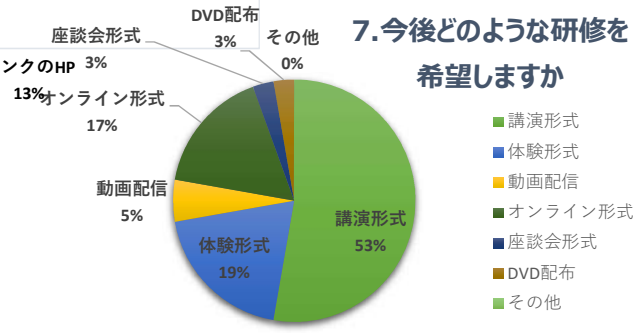
5-2.今後の活動、生活に役立ちますか



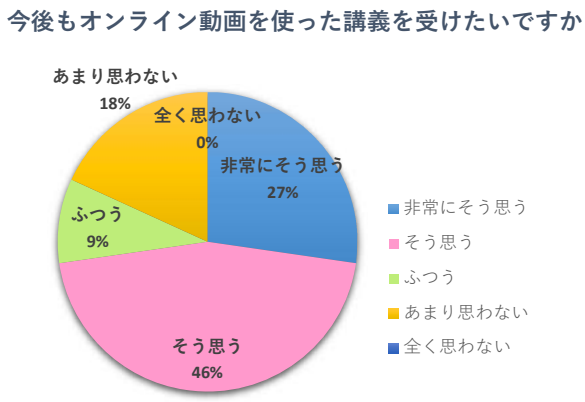
6.今回の研修をどちらで知りましたか

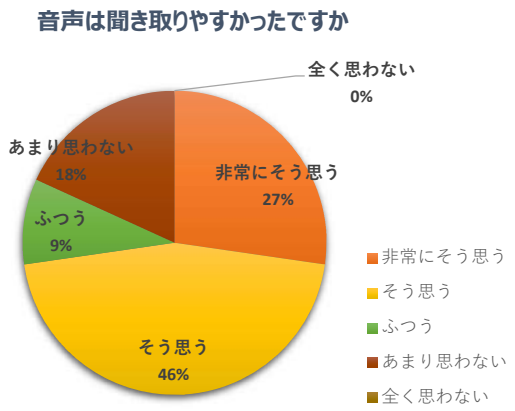


7.今後どのような研修を希望しますか



【オンライン参加者のみ回答】





6.今回の研修でどのようなことを学びましたか

<会場参加者>

・発達障害は生れつき、育ち方でない。環境とのミスマッチ
・障害の息子とくらし、もう一度息子のことを整理しようと思っていたので、とっかかりになりました。
・思いやり、よりそいが一番
・発達障害とは？の知識を学ぶことが出来た。寄り添う事の大切さを知る。
・共感、子ども本人の意見を聞きながらよりそう。
・発達障害である、なし関係なく、思いやりやよりそいは必ず必要だし、人々を成長させるということ。
・当事者の気持ちをくみとることetc、勉強になりました。
・よくわからない
・障害のあるお子さんを育てている体験者としての現実での対応が聞けて大変役に立ちました。
・障害とはどういうものか、それに対してどうサポートしていくか。
・子ども向き合い方、一緒に歩んでいくというしせい。→学ぶことも広めたい事も多く、私も自信をもっていこうと思いました。
・障害のある方は、周りの環境によって全く違う生活になること。
・経験者のお話を伺うことができて今後の子育てに参考にさせていただきます。
・困ったときの対応
・仕事柄（保育）、多くの子どもたちと関わることが多く、小さいながらも個性や特性はそれぞれだと日々痛感する中、今日は、それを認め、受け止め、伸ばしていこうと改めて思いました。
自閉症とADHDの併発の疑いのあるお子さんをお預かりする中で、特性を理解していたつもりですが、これからの寄り添い方に一足を投じられた思いです。

<オンライン参加者>

・障害はその人にあるのではなく、環境とのミスマッチということ。無理に環境に合わせようとするのではなく、その人を尊重した方法を模索しながら対応するということ。
当事者視線の感じ方がよく分かりました。新幹線の駅で漢字を覚える等もっと色々な学びを伸ばす方法が知りたかったです。
・小学校で発達障害の子供たちの支援をしていますが、発達障害の特性や傾向を知っておきたくて参加しました。
彼らの生活や学習を支える上でとても参考になりました。ありがとうございました。
・パニック状態にある人への接し方。
・発達障害は生まれつきで、治らない。だからこそ、認識をポジティブに変えることが重要。
・発達障害について、ゆっくり成長していく様子がとても分かりやすかったです。
・障害のあっても人は色々考えていて、まずは寄り添い同じ目線から物事を見てあげるそれがダメなら違う目線から物事を見てみる。そして一人で対応できない時には人を頼ることも大事な事である。
・発達障害の子どもサンの保護者の 方の思いや考え、進路についてなど、ひとつのケースとして知ることができた。
・発達障害の方のこだわりを否定せず、長所を活かす方向でご相談を受けて行きたいと思います。

9.今後人材バンクで実施してほしい研修内容やテーマがあればご記入ください。

<会場参加者>

・大人の発達障害（と疑われる方が多い）、子どもとの違いについての研修をお願いします。
・低年齢（小学校低学年）の障害対応についても
・大人になってから知る発達障害の対応等の研修望む。
・ADHDについて
・ひきこもりについて
・今日のテーマ、具体的がたくさんある内容が良いです。

<オンライン参加者>

・後半の部分もうちょっとゆっくり聞きたかったです。連続講座でも良かったのでは?
・精神障碍者の生きづらさの現状
・「障がい」を「個性」と言い換える表現が散見されるが、当事者や家族（私も娘が障がい者）は「障がい」は「障がい」と思っており、違和感を感じる。そういった認識の違いについても、専門家の意見をうかがったり、みなさんと話し合ってみたい。
・今回の講座に関連して、学校で、診断を受けていないもしくは、受けており、普通学級に在籍している生徒への対応について。
・発達障害児を現在 育児中の 保護者の方々に話を聞いたり、話が できる場が（機会）があると いいと思った。
・発達障害の方への現場対応の具体的な実践方法

10.その他、ご意見、ご感想、お気づきの点等ありましたらご記入ください。

<会場参加者>

・話が理解しやすかったです。ありがとうございます。

<オンライン参加者>

・とても有意義な講座をありがとうございました。欲を言えばもう少し長くても良かったかな〜。
会場の雰囲気が見たかったので会場カメラも有ったら嬉しかったです。会場の声はマイクを使った方がいいと思います。ありがとうございました！
・初めてオンラインで参加しましたが、不慣れな上、先生のお話が聞き取りにくかったので（これはこちらの通信状態の問題かもしれませんが）できれば会場での参加をしたいとおもいました。「くるみ-来未」のことはじめて知りました。応援したくてわずかですが寄付をさせていただきました。
・たいへん充実した内容でした。ありがとうございました。
・オンラインでもグループワークができることにびっくりしました！会場で、休み時間や、残られた方の質疑応答も聞きたかったです。
・今回の講座に関わっていらしたスタッフの方々が、電話などで講座に関しての問合せ・不具合が生じた後などに、丁寧な・お気遣いのある対応をしてくださり、感謝の気持であった。（距離的・時間的な弊害をクリアできるという点で）オンライン参加はとても良いと思う。ただ、グループワークの時間時、私のグループは結局2人でという環境で、私も相手の方も戸惑った感じであった。（テーマ②の時、グループワーク終了30秒を切ってから、新たな方が画面に映り、この方は、子どもサンのことでグループワークへの参加がこの時点になったとのことだったが）私はzoom初心者で、使い方に不慣れであったと実感しているが、同じグループワークのメンバーとなるはずだった方々が、もともと今回のこのオンライン講座に不参加だったのか、グループワークのみに不参加だったのか、Zoomの使い方に不慣れな為に結果としてグループワーク参加が叶わなかったのかはわからないが、事前にどの方が同じグループなのか？又は、同じグループの方が何人いるのかなどが分かっていても良かったのかなと感じた。

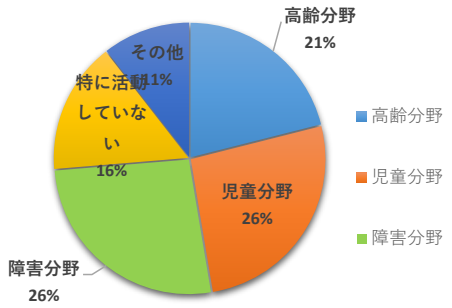
「親の思い～くるみ式インクルーシヴな社会づくり」研修参加者アンケート

開催日：令和3年11月10日（水）

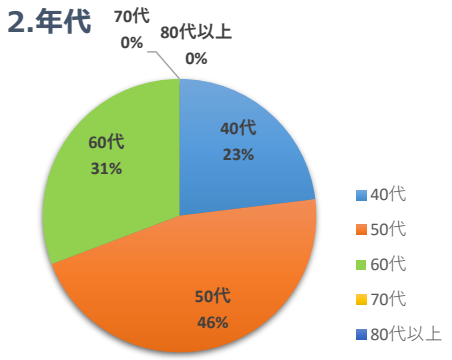
受講者数　23名

アンケート回答者数　20名

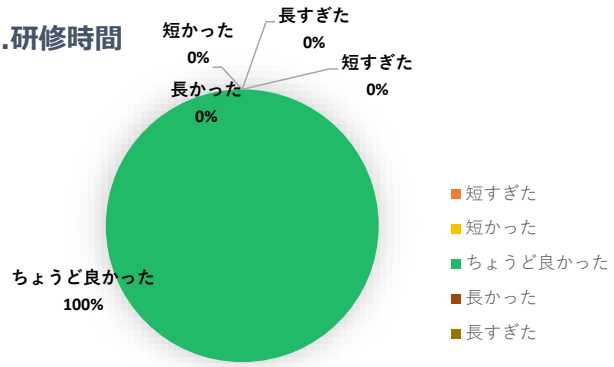
1.所属の活動区分



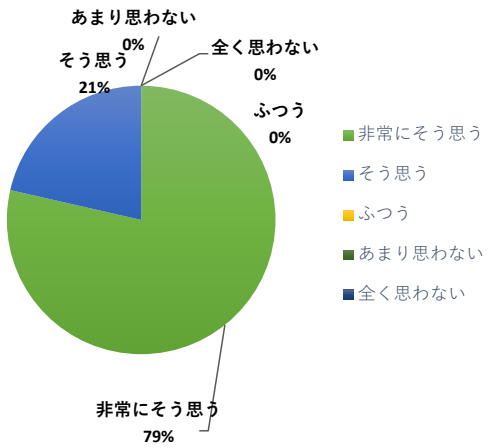
2.年代



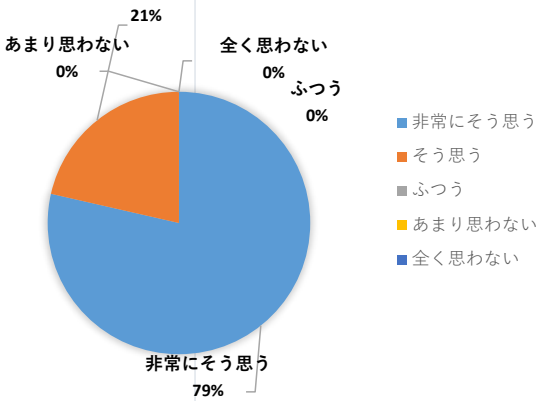
3.研修時間



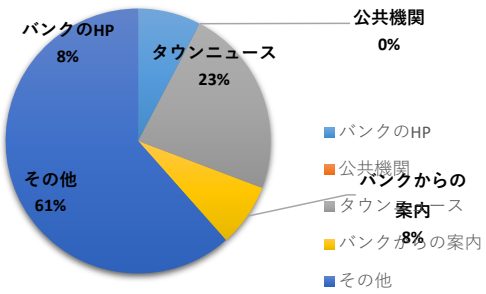
4-1.研修内容はわかりやすかったですか



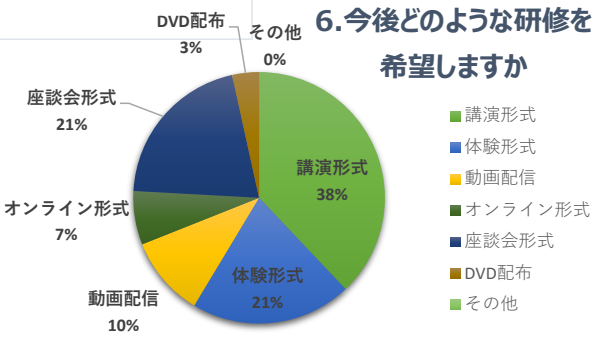
4-2.今後の活動は生活に役立ちますか



5.今回の研修をどちらで知りましたか



6.今後どのような研修を希望しますか



7.今回の研修でどのようなことを学びましたか

・なかなか就学後に保護者同士での悩みや困りを聞く場所がない（未就学時には療育センターがあった）ので色々と聞くことができてよかった。

・保護者の方の気持ちが解った。太田さんの講座、3度目です。自分の再確認と理解を深めようと受講しました。（仕事の為）機会があれば一歩踏み出してみたいと思っています。

・いろんな障害を持つお子さんの話、親の苦労したこと、よかったことのお話が聞けて、同じ障害児の親として共感したり関心したりできました。ありがとうございました。

・かけてほしい言葉、NGな言葉への理解が深まりました。現場でも気をつけていきます。ありがとうございました。

・合理的配慮の件、皆様に広めたいと思います。

・公共施設での・・・この例の件は多々あると思います。そういう時の言葉がけ、対応は考えさせられます。思いやり、想像力、私の一方的な価値観が入らぬよう心掛けないとと思いました。

・大人も子どもも特別なことは何もなく、共に生きていく社会を創る”何か”ができるといいなと思います。長年の活動の歴史を知って、パワーをいただきました。ありがとうございました。

・親の苦労

・本日は貴重な学びの機会をありがとうございました。親の立場での苦労や困難、思いへの共感ができて、その子にとってそれぞれに必要な支援、対策が必要ということに納得できた。自立支援のために今後も考えていきたいと思う。とても参考になり又学びになりました。またこのような機会に参加したいです。

・社会の中には、様々な状況（事情）のある人がいる。地域の人がその事情について正しく知る機会を積極的に持つ必要性（大切さ）、キューブラー・ロスの「死の重要段階モデル」（障害受容に置き換えたもの）、他のこと（不登校、性的マイノリティなど）にも当てはまるとおもいました。学びではなく感想になりました。すみません。発達障害についてや、その人やその家族の生きづらさを知ることができました。

・子どもに関わることは多いのですが、保護者の方の気持ちを聞くことでさらに子どもたちへの関わり方が変わり、良い成長の促しにつながると思うので、今日たくさんの思いを聞かせて頂けて本当に良い時間となりました。ありがとうございました。

8.今後人材バンクで実施してほしい研修内容やテーマがあればご記入ください。

・発達障害関係全般

・きょうだい児について知りたいです。きょうだい児のケアについて悩んでいます。親の会のようなきょうだい児が集まれる場などはあるのでしょうか？

・現在自宅で義父の介護にかかわっています。娘は介護職として働いていいますが、実際の介護となると外部の方の力を家族でしなければいけない時間も多くあります。「プチワンポイント」のような少しでも楽にできる事を研修、講座として取り上げてほしい。身体介護に関してお願いしたい。職業につながることだけでなく、家族で安心して過ごせるような身体に打たんをかけないような介護方法を知りたい、学んでみたいです。」

9.その他、ご意見、ご感想、お気づきの点等ありましたらご記入ください。

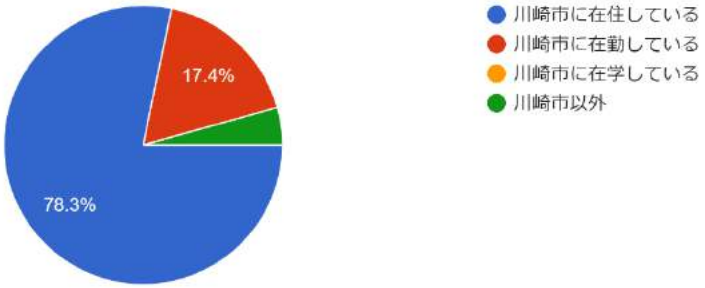
・家庭の中の事を話せる人がいないので、4人の親御さんのお話を聞かせてもらって、孤独感が少し和らぎました。ありがとうございました。

・申込方法に関して。パソコン、スマホ（ＦＡＸ）での申込になっているが、郵送での申込も再考してほしい。機械の不具合、不慣れなもので申込で手間取ってしまい、受講希望でも考えてしまう。

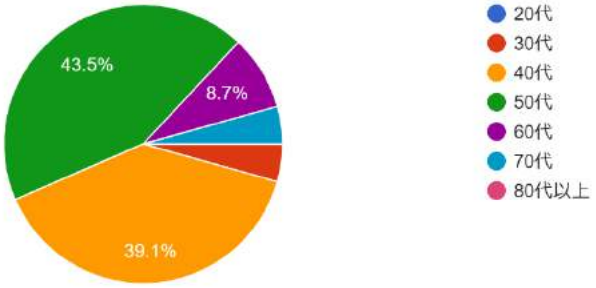
11 月 10 日（水）親の思い～くるみ式インクルーシヴな社会づくり～
アンケート（午後：オンライン）

参加日時
23 件の回答

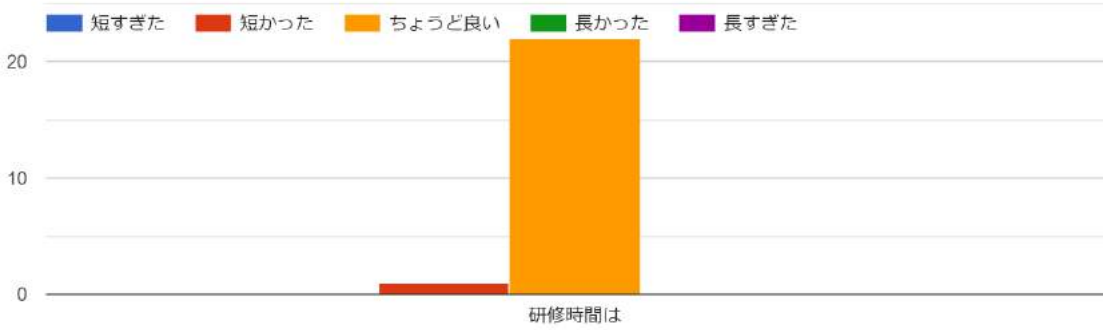
ご自身がどれにあたるか、1つを選択してください。
23 件の回答



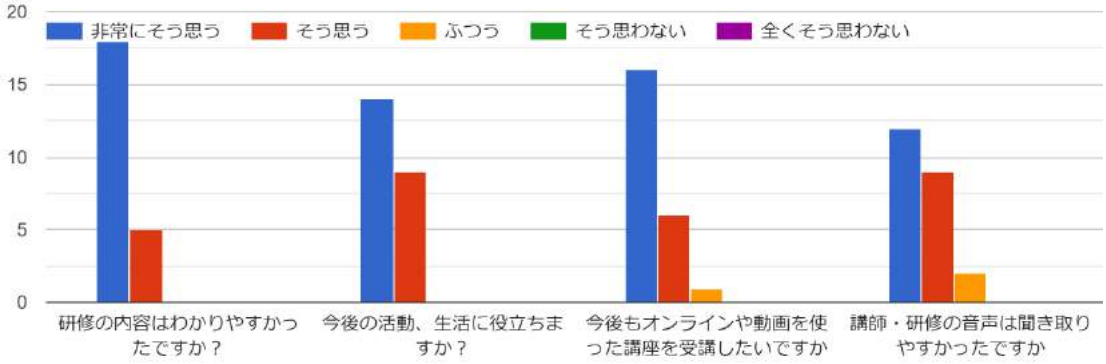
年代
23 件の回答



研修時間はいかがでしたか

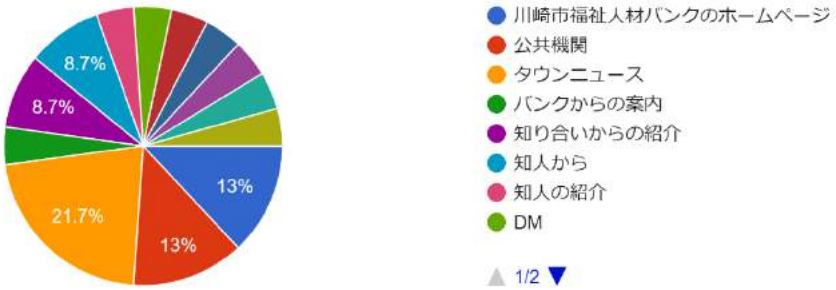


研修の内容について

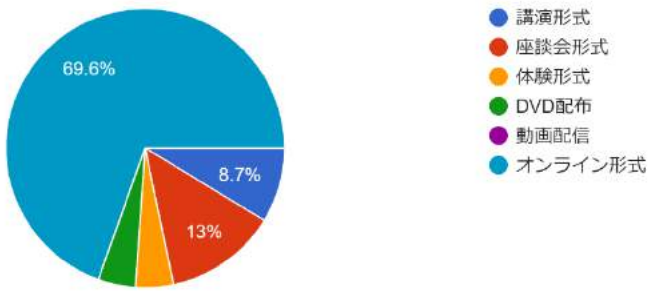


今回の研修をどちらで知りましたか

23 件の回答



今後、どのような研修を希望しますか？
23 件の回答



今回のオンライン受講にあたり、困ったことなどがありましたら、ご記入ください。（ネット環境など）9 件の回答

・ありません。
・オンラインだとなかなか質問しにくいです。
・とても聴きやすく、資料も見やすくてなんのストレスもなかったです。
・今回 というより、そもそも スマホやパソコンの操作が苦手な為、見ることだけで精一杯です。が オンライン受講は 、今の時期に参加するのにはとても、都合が良いです。是非 また 参加させて頂きたいです。
・メールに添付して資料を何度か送信していただいたが、添付されていなかったり、資料の一部のみ添付されている状態になってしまったようだった。（原因の詳細は 分からないが。）できたら、資料は郵送での対応のほうがいいのかも・・・間じた。
・特にありません。
・特別にありません
・特にありません
・特になし

今回の研修でどのようなことを学びましたか？23 件の回答

・障害のある人たちやそのご家族への支援について、まだまだ課題が山積していること
・周りの見守りやサポートがいかに大切であるかを痛感しました。
・お子さんへの愛情が痛いほどつたわってきました。 それを実行に移している皆さんはすばらしいなぁ。と感心致しました。 親が出来ることはたくさんありますが、その一方で限界もあるな。とも感じます。その時その時、最善と思われる道に進むしかないですよね。子供が成長し、親の願いと子供の希望がズレて来たとき、どこまで許容できるか。今後の課題です。
・私も親ではありますが 他のご家族、お子さんの思い✨や 様子、状況などのお話を聞く事が出来て とても良かったです。 うちにもあった困り事、これから起こりうる事や 他の方の場合など、これから の事と多くの思いと考えを知る事が出来て、嬉しいです。

・辛いのは自分だけではなく、皆さんも辛い中で頑張っていらして、励みになりました。
・支援を受ける側として肩身の狭い思いをしていましたが当事者としての思いを声にする事が大切だと気付かせて頂きました。
・発達障害のお子さんを持つお母さんにどうお声がけしたらよいか聞けたのがありがたかったです。 また、発達障害にかかわらず、子育てをしていく上で気をつけなきゃいけないことをいっぱい学びました。
・障害者への理解が少し深まりました。
・親御さんの想い、親御さんのホッとする時、まだまだ自分には色んなバイアスがあること、誰にとってのバリアフリー？→誰にとっての遊びなのか？　自分の日常に置き換えて色々なことを考える機会をいただきました。ありがとうございました。
・当事者保護者です。親亡き後のことを考えて地域とのつながりや関わってくれる支援者を増やしたいと思いました。
・子どもさんのことで　保護者の皆さんがどのようなことに悩んだり葛藤を感じながらも、日々過ごされてきたのか　知ることができた。 その保護者の方々が悩んだり困ったりしている中で、陥りやしい状態を知ったが、独りでそのように陥ってしまうと精神的にも　かなりキツイな・・・と感じた。 過去に病院などで、「順番を替えて先に受診てきれば・・・」と感じる場面に遭遇したことがあったが、『合理的配慮（障害者差別解消法による）』なるものがあるということを　今日　学ばせていただいた。
・共にこれから生きていく為に必要な考え方、接し方を学びました。
・一番印象に残った言葉は、発達障害とは個人と環境のミスマッチであり、個人の障害では無いということです。ここに全てが含まれると思いました。 周りの理解と環境でかなり生きやすくなるはずと改めて思いました。
・障がいがあろうとなかろうと、親の思いは同じだし、本人の意思を尊重することは大切であること。発達障がいの方にかける言葉は、相手の状況を想像して思いやる心が大切だということ。シンクルーシブの大切さ。
・登壇者の体験を聞いて、共感が出来、自分の子供の未来の想像が少し見えてきた。その後のお話しで共生がなかなか進まない現状があることが分かり、障害児の親としての支援の心構えを考えていきたいと思った。
・福祉施設から発信する地域包括ケアシステムの方向性
・多くの支援者の方とつながる大切さ
・親が、とても葛藤していることを知れたのが勉強になりました。
・年齢など成長の段階によってできることが増えたり、問題が新たになることなどの変化も親の立場としての皆様の発表でわかり、我が子や自分自身の体験と重ねて改めてどのような対応をしていくと良いのか考えることができました。 インクルーシヴな社会を作るために必要なことや自分にもできることをこれからも考えて行きたいと思いました。
・条件の平等ではなくて、結果の平等が大切だという話にハッとさせられました。

・保護者の方に、心に秘めた思いがあること。言葉の掛け方ひとつで受け取り方が変わってくるので、話し方には気を付けたいです。
・障害者の方々をとりまく現状について
・周囲の理解がもっと必要であること

今後、人材バンクで実施してほしい研修内容やテーマがあればご記入ください。 11 件の回答

・発達障害の人の就職の実態について。どのようなところに務めているのか、またどのようなサポートがあるのかなど。
・青年期から成人、その後の支援　や居場所、将来について　、お金や住むところなどもやはり、気になります。 支援者の方を探して、繋がるためには、
・また今回みたいな講演会や座談会もして頂きたいです。先輩方に相談やアドバイスをして頂けたら幸いです。
・暴力を振るう不登校の子どもへの対応について。
・子どもの貧困問題の現状を知る　どの様なサポートができるか、など。
・後見人について
・児童（引きこもりやいじめ問題等）、成人（引きこもりや８０５０問題）など
・強度行動障害の理解
・人材バンクさんの活動がよくわからないので知りたいです。(申し訳ありません)
・より多くの職員に今回の研修を受講させたいので、また同じ内容でお願いしたいです。
・外国人との共生に関わるテーマ

その他、ご意見、ご感想、お気づきの点等ありましたらご記入ください。 7 件の回答

・よく整理されたお話でした。また、内容もすばらしかったです。とくに、太田さんの「ふりかえってみて感じること」、その通りと思います。
・貴重な体験談が聞けて大変勉強になりました。 是非第２段を期待しています！　ありがとうございました。
・くるみの太田さん、今日　お話をしてくれた町田さん、島根さん、大嶋さん、礒さん、 皆さんの大事な経験を聞かせて頂き、ありがとうございます。 大事な事が詰まった二時間でした。
・太田さん、磯さん、スタッフの方や参加された方やお話をして頂いた方々に本当に感謝しております。ADHD と ASD の息子の事で丁度悩んでたり、イライラしたり、不安になってた時だったので心に染みました。私自身も人生の半分をうつ病で過ごし、今年の春に ADHD の衝動性の傾向、グレーゾーンと診断され、青天の霹靂でしたが思いあたる事があり過ぎて納得してます。生きづらい親子で奮闘中なので、どんどん皆様のお話をもっとお伺いしたいと思っております。ありがとうございました。
・上記（『今回のオンライン授業にあたり・・・』）に記載。

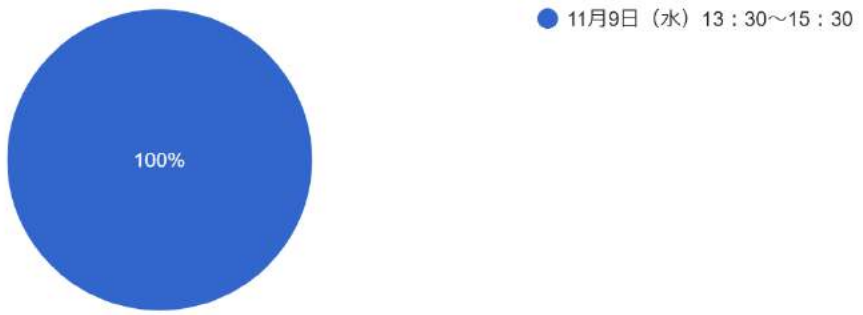
・時間が許されればチャット又は直接マイクを使って意見交換や参加者の体験談を聞けたらなお良かったと思います。
・運営の方、ご登壇された親御さん、ありがとうございました。あと、自己開示していただきありがとうございます。ご本人の困り感や状況が理解でき、とても身近に感じましたし、わかりやすかったです。

「発達障害のある人の青年期をどう支えるか～ある青年のケースからの学び～」

受講者数28名　　アンケート回答者数15名　　2022.11.9　　13:30～15:30

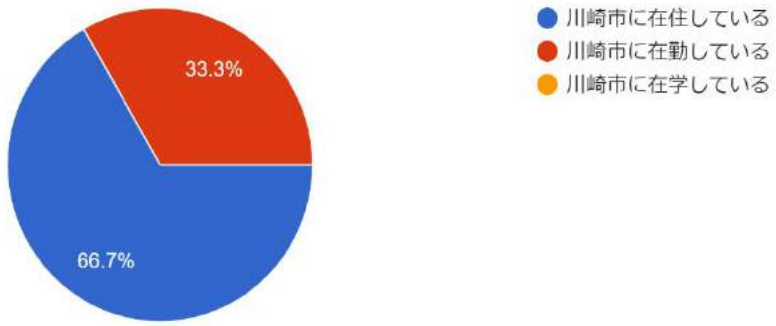
参加日時

15 件の回答



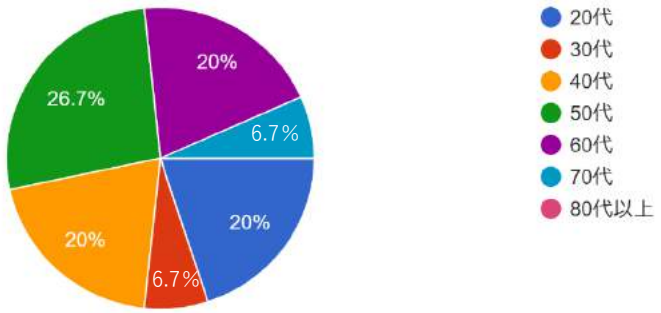
ご自身がどれにあたるか、1つを選択してください。

15 件の回答

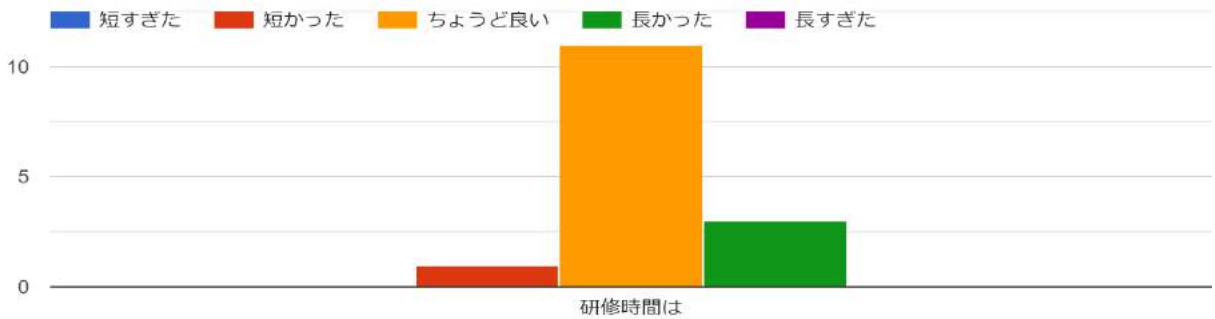


年代

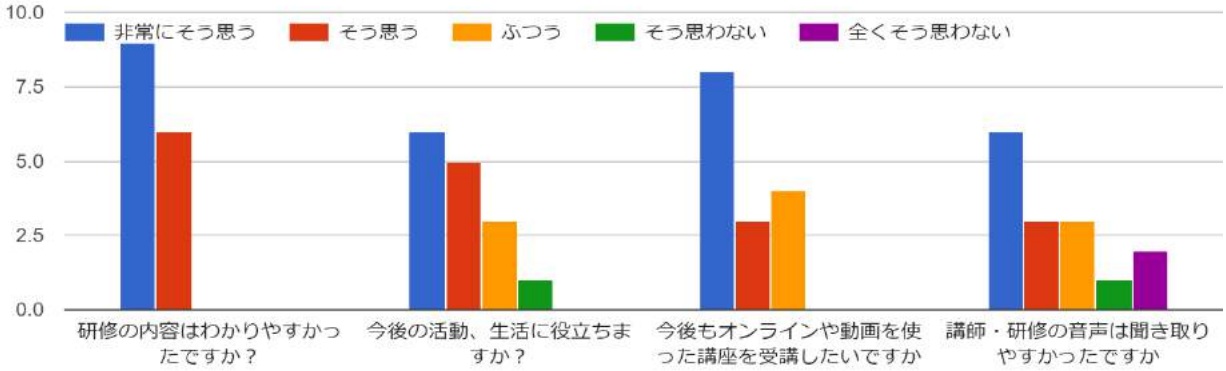
15 件の回答



研修時間はいかがでしたか



研修の内容について



今回の研修をどちらで知りましたか

15 件の回答

今後、どのような研修を希望しますか？

15 件の回答

オンライン受講にあたり、困ったことがあればご記入ください。

・困りごとは2つあります。
①講義が始まったばかりのとき、講師の方がミュートにしていたため音声が聞こえませんでした。また、講演終了後に事務局の方がアンケートの説明等をしていましたが、それもミュートのままでした。幸い、講師のマイクがオンになっていたためそちらで音声が拾われかろうじて聞き取れました。講師の方だけでなく、事務局の皆さんも話すときは「ミュート解除」を徹底してほしいです。
②ZOOM入室時の音（ピンポーン）を消してほしかったです。講義開始前であればよかったのですが、講義開始後、講師の方が話しているにもかかわらず入室音が何度も鳴り、非常にうるさかったです。

・特にありませんでした

・事前ログインは必要だったのかよくわかりません。他のオンライン講座でこのようなことを求められたことはないので。また、カメラオンも情報保護の観点から必要だったのはわかりますが、こちらも育児や家事をしながらの視聴ができないのは制約が大きいなと思います。

・最初だけでなく、最後まで音声が悪かった（イヤホン、最大音量でやっと聞こえる）

・自園のネット環境が悪く、声が聞きづらい時があり、やはり、自分は、対面が良かったかなと参加して感じました。

・カメラをオンということでしたが、うまく作動せず、オンにできませんでした。

研修で学んだことをお聞かせください。

・親の目線の話が、とても勉強になりました

・発達障害あるなしに関わらず、子育てに正解とかはなく、試行錯誤の繰り返しという事とNPOくるみさんという頼れる存在を知った事でしょうか

・いちばんは、支援が必要なはずの当事者が声をあげない時に、それでもつながり続けることが大事だということ、そして当事者が声をあげるのを躊躇うほどこの国の福祉は信用されておらず、自己責任論が浸透しているということです。
Aくんはくるみがなければどうなっていたか…と考えると、アウトリーチの必要性がとても大事でこの国の福祉にとどまらず社会全体の課題だと思います。

・障害児（者）の親御様の苦しみ、考え方、望む事など

・周りが受け止めにくい、本人は生活し難い障がいなことを再確認しました。

・発達障害について、以前よりも格段に周知・理解・支援ができていることがわかりました.

・その方々が抱える社会に対する困った感や、捉え方の違い。一層、寄り添って差し上げたいと、思いました。

・躓くポイントは各自それぞれで、それに合った支援が必要なのがわかったけれど、そこが一番難しいということも再認識しました。

・発達障害には程度があるが、明らかに人と違う特性がある以上「何とかなるだろう」では本人や家族が一番困る。周りにうまく伝えながら、自分のニーズをしっかり伝えるようにしていきたい。

・サービス資源の不足、インフォーマルの大切さ、親御さん亡き後の支援の有り方などを学ば差せていただきました。

・支援を求めてはいないが苦労している知人へ何ができるか悩んでいましたが、繋がりを切らさない事、SOSを出しやすい環境にする事が大事だと教えて頂きました。

今後人材バンクで実施してほしい研修内容やテーマがあればご記入ください。

・就労世代の発達障害の方への支援の在り方と課題について知りたいです。

・親亡き後の障害者の生活について

・種々の視点からの研修を期待しております。

・特になし.

・特に無し。案内があった際に、受講したい内容であれば、参加させていただきたいと思います。

・発達障害関係（特に青年期～大人）の、知的問題を伴わないが故の福祉の網から漏れてしまう人（および支援者）向けの研修

・後見人制度の詳細など

その他ご意見・ご感想・お気づきの点等ありましたら、ご記入ください。

・貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。レジュメも紙で送っていただき、大変ありがたかったです。

・開催時間が平日の午後というのは、私のような育児中の保護者からすると大変都合がつけづらいです。子どもたちが学校や園に行っている午前中、もしくは土日開催だとありがたいです。
・募集期間がとても短く、また募集人数もとても少ないように思います。とても有意義な研修だったので、もっと多くの人に届けることをご検討いただきたいです。

・全ての研修に参加は出来ませんが、今後も必要に応じ参加させて頂きます。

・特になし.

・特にありません。ありがとうございました。

・カメラはオンにする必要はなかったのではと思います。

・質問をまとめて的確に答えて頂いたのは長引かずポイントが絞られて良かったです

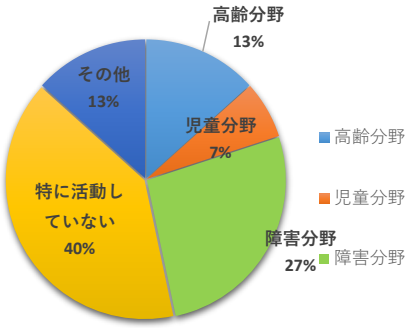
「発達障害のある人の青年期をどう支えるか～ある青年のケースからの学び～」研修参加者アンケート

開催日：令和4年11月9日（水）

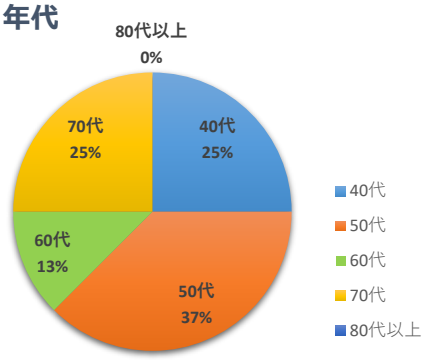
受講者数16名

アンケート回答者数　16名

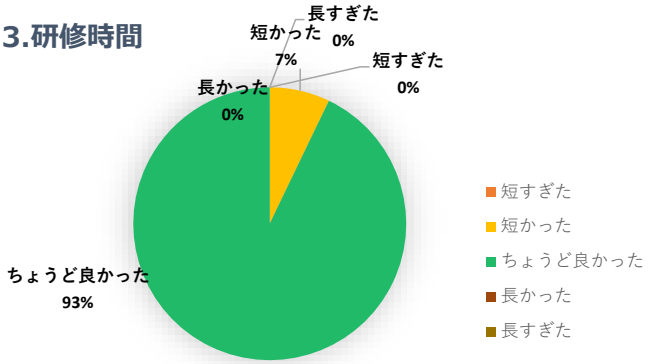
1.所属の活動区分



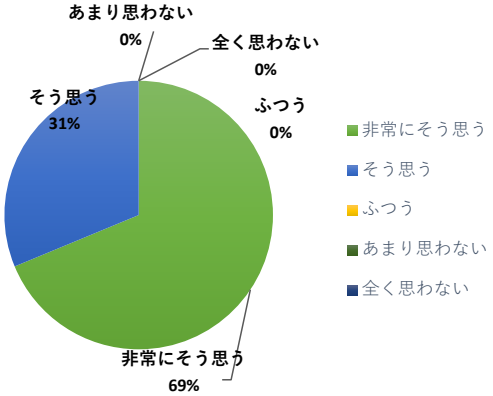
2.年代



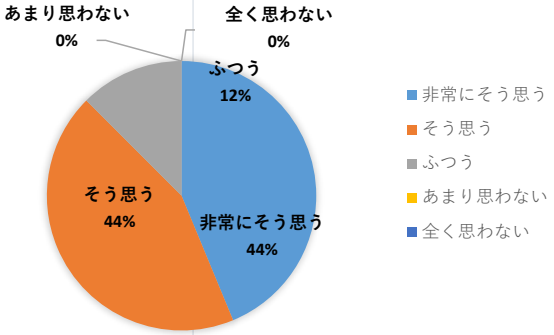
3.研修時間



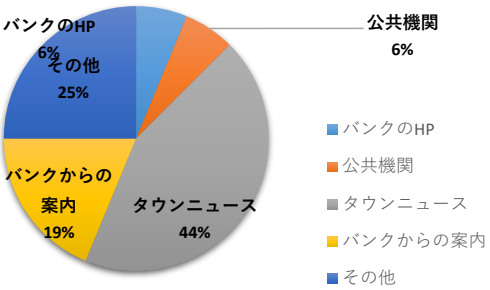
4-1.研修内容はわかりやすかったですか



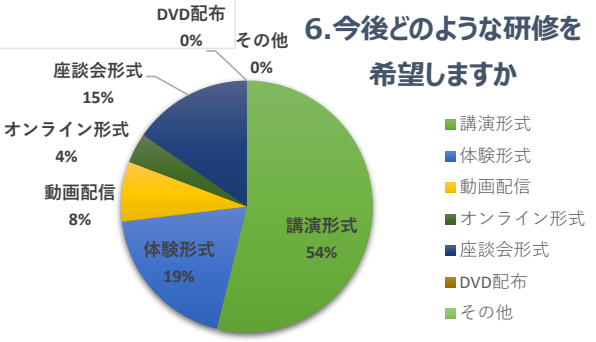
4-2.今後の活動、生活に役立ちますか



5.今回の研修をどちらで知りましたか



6.今後どのような研修を希望しますか



7.今回の研修でどのようなことを学びましたか

・チームで気にかけ、目をかけ心をかける、を忘れずにやっていきたい。
・様々な考え方があるし、みんな困っていたりするんだと感じました。つながりを切らさない。声をあげ続ける。
・当事者や当事者家族のマインド、支援の距離感が少し変わりそうです。
・ひとりひとり違うが寄り添ってあげることが一番大切だと思った。
・発達障害の青年期の方がどのような生活をしているのか、仕事のやりずらさなど、とても参考になりました。
・明石さんの言葉を念頭に活動していきたいと思いました。
・とても現実的な内容でよかったです。少し先（青年期）のお話を聞けた事で、今からやるべきことを知る事ができました。
・どこまで支援ができるかどうかの見極め。
・できるかできないかではなく、やりたいかやりたくないかで決める。
・つなぐこと。インクルーシブな社会を作る。
・アウトリーチの必要性。
・自立とは、援助、SOSを求めて生きていける姿勢。
・親が陥りやすい状態、改めて学ぶ必要性。
・こうしたグループ作り、支援を立ち上げる勇気と、生き方を一緒に楽しむ姿勢は素晴らしい！！
・悩んでいるのは自分だけではないと思えて、すこしホッとした。

8.今後人材バンクで実施してほしい研修内容やテーマがあればご記入ください。

・不登校、ひきこもりについて（10代後半、グレーゾーン）
・子ども～成人～と成長していくなかで、支援が途切れないための手段、方法など、具体的な施設名、問合せさきがわかるような内容の講習会？をして頂きたい。
・グレーゾーンの方達への対応。

9.その他、ご意見、ご感想、お気づきの点等ありましたらご記入ください。

・ありのままを認め合う社会、本当に園通りだと感じました。発達障害の18歳の長男、不登校の16歳次男、テレワークの夫がおり、毎日モヤモヤを感じながらの生活ですが、孤立せず、周りとつながり続け、各々を大切に思える何かを大事に元気に生きていきたいです。ありがとうございました。
・2番目の席だったため、スライドがあまり見えず少し残念でした。
・会場。安心（コロナ対策）して過ごせました。ありがとうございました。